

# ホテルカリフォルニア

— 私戯曲 県立厚木高校物語 —

作◎横内謙介

登場人物

横山

ハツパ

シュウケイ

岡本

宮城次郎

張ヶ谷

関水

ナオさん

日根

堀江

ミナトヤ

演出助手リエ

橋田先生（体育科）

中村先生（担任、化学科、演劇部顧問兼任）  
まり子先生

母

滝川先輩

団長

団部の矢島

近藤先輩

塩尻先輩

バカ垣戸

ガリ勉高山

伝兵衛

リーゼント

チリチリ

ジョー

リンダ

ナンシー

アーヤ

蓮見

野崎

黒江

ガリ勉君

ガリ勉さん

三好記者

厚高生

一幕

1

2021年 某日。

とある劇場。

舞台稽古中。

ストリート系ダンスのダンスシーン。

振付助手のリエが舞台上に立つ。

リエ 間もなく場あたり始めます。みなさん宜しくお願いします。(位置につき)音、  
お願いします。

ダンスミュージックが流れ始める。

リエ ○○がまた甘いよ。○○○をきっちり決めて。

ダンサーたち はい、すみません。

リエ (客席に向かって) もう一度、返しますか？

横山の声 (マイクからの声) 「うん……もつとカッコよくなるかな。今つぼく、ス 1

トリート感が欲しいな」

リエ はい、ストリート感。

ダンサーたち はい。

横山の声 「もっさいんだよ、田舎臭いぞ。クールにさ」

すると聞こえる天の声。

天の声 「しょうがんねえべ。俺ら厚木だからよお。クールは遠いべ」

一同 ?

リエ え、何ですか？

天の声 「俺らのストリートは、一番街だんべよ」

リエ い、一番街ですか？

天の声 「そうだよ、内田屋書店とシャノールだ」

横山の声 「タクヘイさん、何かマイク混線してるよ」

天の声 「そしてダンスといえば、フォークダンスだ」

一同 ?

天の声 「無理すんなって、ケンイチ。厚木に帰って来い」

リエ 意味わかんないんですけど。厚木っぼくやるんですか？

横山、舞台に現れて。

横山 おい、誰だ、ふざけてんの！

すると45年前の詰め襟とセーラー服の姿の一団が、マイムマ  
イムを踊りつつ現れる。  
やがて加藤秀慶（シュウケイ）が現れる。シュウケイは白衣を纏  
い、ギターケースを提げている。

横山 シュウケイ……

シュウケイは黙って一枚の服を横山に差し出す。  
それは詰め襟の制服だ。

シュウケイ 話したいんだ……なあ、話そうぜ。

マイムマイムの生徒たちが、横山を連れ去って行く。  
シュウケイは語り始める。

シュウケイ 神奈川県立厚木高校。そこでボクらは出会いました。神奈川の中央部の優等  
生たちが集まる進学校です。創立は明治35年。ずっと男子校で、共学になっ  
たのはつい最近です。ボクらの学年の男子450人に対して女子が100人。  
しかも、そのほとんどが男子より成績がいいという、困った学校でした。

学校の廊下が出現する。その廊下の壁に、生徒名の書かれた無数の  
短冊が張り付けられている。

シュウケイ 4月、この学校に入学したボクらがまず目にしたのは、正面玄関に張り出  
されたこの光景です。これは、この年、この学校の生徒たちが大学受験で収  
めた戦績です。大学ごとに合格者の氏名が張り出してあります。中央に東京  
大学。その横に京都、一橋、そして様々な医科大、医学部……少し離れて校  
長室前に早稲田、慶応、順に明治、立教、青学、法政……ずっと離れて便所  
の前が日大、専修……角を曲がって日体大……  
ともあれ、普通の女の子に戻りたいと、キャンデイズが解散宣言をした1

977年、ボクたちはこの生徒になりました。

生徒たちはその壁を見上げている。

今や制服に着替え、高校時代の姿に戻った横山もそれを見上げている。  
時間は一気に四十五年前に朔る。

1977年、春。

正面玄関、戦績表前。

横山が一人見上げていると、そこにハツパ（中島葉子）が来る。  
ハツパの側には滝川先輩がいる。

ハツパ 横山君、何組？

横山 H。

ハツパ 悲惨、男組じゃん。（紹介して）同じ中学の横山君。生徒会の滝川先輩。  
新歓で司会やってたでしょ。

滝川先輩 よろしく。（と握手の手を伸ばす）

ハツパ 生徒会手伝うの。部活は？

横山 演劇部。

ハツパ エンゲキ？ へえ！

横山 名前だけだよ。潰れそうだから、名前だけ貸してくれて、頼まれたんだよ。  
ハツパ やればいいじゃん。

横山 嫌だよ。恥ずかしい……

滝川先輩 何でもいから、打ち込むものを一つみつけた方がいいナ。そうじゃないと、  
簡単に流されちゃうぜ。自分をしっかり持って。

4

そこに2年生が二人、通り掛かる。

二人はすれ違いざま「シート」という音を滝川に浴びせてゆく。

ハツパ 私、あれ大嫌い。

滝川先輩 気にしねえよ、あんなの。じゃ、頑張つて。

横山 ハツパ、今度、中学のクラスで集まるの知ってる？

ハツパ 行かないよ。始まったとこだよ、高校生活。

滝川先輩 ハツパ？

ハツパ 葉子のヨウが葉っぱって字だから。

滝川先輩 ハツパちゃんか。

ハツパ 秘密にしたのにイ……

滝川先輩 サンキュ、横山君。行こうぜハツパちゃん。

ハツパ もう！

と二人は笑いながら去る。

シュウケイ語る。

シュウケイ

シートツ……当時、流行っていたものです。誰かが真面目な発言をしたり、青春っぽい臭いことをいい出した時に、こうやって皆で音を立て、小馬鹿にするのです。世間はボクらをシラケ世代と呼びました。しかし、その一方で、ここには古い伝統もしぶとく残っていました。その一つが応援団の歌唱指導です。午後の授業が終わると、応援団員が各クラスにやって来て応援歌を教えるのです。

H組の教室。  
 教壇。その後ろに黒板。  
 居並ぶ生徒たち。横山の隣には張ケ谷。  
 応援団員、矢島が現れる。

矢島 押忍！ 歌唱指導を始めます。では、自分に続いて歌って下さい！ あつぎイ、かうかうツ、おう、えんかア！ 『燃ゆる、闘志』

そして教壇を力一杯叩きつつ、歌い始める。

矢島 (前奏で) 「その名ぞ厚木イ、久遠の覇者！」 (一番) 「若き血潮が沸き出づる………」 はい！

新入生たちの声は小さい。

矢島 もっと大きな声で歌って下さい！ (歌って) 「若き血潮が沸き出る………」 はい！

やっぱり小さい。

張ケ谷に至っては、全く歌っていない。

矢島 腹から出して！ (歌って) 「青春の力、燃ゆる闘志！」

そこに竹刀を持った鬼のような団長が現れ、突然、机を叩く。

団長 何だ、これは？

矢島 押忍！

団長 声ぐア、小イさアい！！！！

矢島 押忍！

団長 ケン立て。二十！

「押忍！」と叫び、矢島は素早くケン立て(掌を握ってやる腕立て伏せ)を二十回やる。

団長 よーし。下ろせ。

命じられた矢島は腕を曲げたままの辛い姿勢で偉止する。団長は同じくケン立ての姿勢を取り、矢島と向き合う。

団長 (意味不明の奇声) サツキョーウ！ オスオスオスオスオス！

矢島 (それに呼応し) オスオスオスオスオス！

団長 気合を入れろ！（立って）『栄えあれ厚木』。

矢島 押忍！

矢島は黒板の前に登ち、

矢島 押忍！ 厚木高校、応援歌ッ『栄えあれ厚木』

そして握り締めた拳で、割れて砕けよとばかりに黒板を殴りつけつつ応援歌をガナる。

『栄えあれ厚木』

瀕る力と 溢れる闘志

進め我が選手 栄冠目指して

輝く三剣我が誇り

A・T・S・U・G・I

A・T・S・U・G・I

ATSUGI！

オオ、厚木、栄えあれ厚木

歌ううちに矢島の拳から血が噴き出してくる。

黒板が血に染まってゆく。

歌い終わると団長が矢島の手を取り、ボクシングの勝者を称えるごとく

高々と掲げて見せ、

団長 この手を見てくれ！ この赤き血こそ、厚木魂だ！ 矢島が見せてくれた、この

血染めの拳と黒板をその目にしっかりと焼き付けて欲しい。押忍！

矢島 押忍！

そして応援団は去って行く。

「スッゲー！」

生徒たち、血染めの黒板に駆け寄り感動し合う。

横山も黒板を見るが、立とうともせぬ張ケ谷の側に戻る。

横山 凄いな。

張ケ谷 インチキだよ、こんなもん。

横山 本物の血だよ。

張ケ谷 精神がインチキなんだよ。

横山 え？

張ケ谷 あいつらだって、旺文社模試とか受けてんだぜ。恰好だけだよ、恰好だけ。こんなもん、早く廃止すりゃいいんだ。

横山 ……………

張ケ谷 ダメなんだよ、ここは田舎だから。制服なんかねえんだぜ。東京の学校は。学園紛争の時、ちゃんと生徒たちが闘って自由を勝ち取ったんだ。闘わねえんだ、百姓は。守りしか考えねえから。

横山 詳しいんだね。

張ケ谷 兄貴がいんだ。年の離れた。ここ出身で前科者。

横山 え？

張ケ谷 大学で闘争やって捕まったんだ。

横山 張ケ谷君、部活は？

張ケ谷 (首を振り) 俺、やりたいことあるから。

横山 何？

張ケ谷 ……そのうちな。

横山 ……………

張ケ谷 横山、エロ本とか好き？

横山 まあ。

張ケ谷 パンチだけど。三東ルシアと泉じゅん。コンドームは使う？

横山 ねえよ、そんなの。

張ケ谷 使えよ。(と一コ渡す)

横山 オレ、初めてだ。

張ケ谷 センズリで汚れなくていいぜ。

そこに剣道の道具をつけた岡本宣也がドカドカと入ってくる。岡本はいきなり道具を脱ぎ散らかす。

張ケ谷 どうしたんだよ？

岡本 殴って来た、2年の奴。おい、ハりは俺が中学ン時、県大で3位だったの知ってるよな？

張ケ谷 必殺、押し出しだろ。

岡本 バカ、ちゃんとルールにあんだよ。3回場外に出せば、一本。

張ケ谷 (横山に) 相撲みたいナ。

岡本 とにかくここには俺より強エ奴はいねんだ。それがイチイチ偉そうにいいやがってよオ。頭キタ。何で俺が、あのド下手どもにペコペコしなきゃなんねえんだ。

張ケ谷 やめんのか？

岡本 おう。あいつらが土下座して、頼みに来るまで戻ってヤンねえ。

張ケ谷 俺を誰だと思ってるんだ。綾瀬の虎、岡本だぞ。(突如、流血し) お、鼻血だ……

横山 おい、凄いぞ。紙、紙……

岡本 殴られたの？

張ケ谷 バカ、俺が殴られるか！

横山 昔から、意味なく鼻血出すんだ、こいつ。

岡本 大丈夫かよ、おい……

横山 (パンチを見て) お、平凡パンチじゃん。余計出るだろ、よせよ。

と二人が岡本を看病するうちに暗転。

担任教師の中村先生（愛称バタヤン）が一人立つ。

中村先生

来週、父兄面談を行います。その時に、この調査用紙を参考にするから、ご両親と相談の上、記入して提出するように。先日実施した実力試験の結果もその場で知らせます。

そこはH組の教室。

面接のために、机と椅子が並べられている。

横山と母・美津子が一礼して席につく。

白衣を着て、白髪の中村先生も向かいに座る。

中村先生

化学（バケガク）の中村です。

母 は？ おぼけ？

横山 化学。

よろしくお願い致します。横山でございます。

中村先生

さっそくですが、これが実力試験の結果です。横山君の実力は542人中、378番ですね。調査表によると、横山君の志望は国立文系で、東京大学か一橋大学。東大の文系は今年は現役で5人。一橋が9人。この二校を狙うには、まあ、20番以内にはいないと難しいでしょうナ……

母 あの……実力が何番？

中村先生 378番です。

あら、そんなに出来ないんですか？

母 はい。

横山 ……

こんなの初めてですわ。ずっと10番以内だったんですよ。

中村先生 みんな、そうです。ここに来るのは、皆、各地区の秀才ばかりですから。

母 健一君。

横山 ……

厚木に入ればすぐ一流校に行けると思ってらっしゃる御父兄の方は多いんです。でも実は、ここからが大変なんです……しかし、まあ、東大だけが大学じゃありませんし。スポーツなどやり、身体を鍛えて……

母 もう無理ですか？

中村先生

いやいや、まだ始まったばかりですから。失敗は成功の素とも言いますし。失敗ですか？

中村先生　いえ。横山君、しっかりやんなきゃダメだ。  
横山　はい。

横山と母、頭を下げて退出。  
そのまま二人、町を歩く。

母　お化けの先生？　何だか、さえない人ね。  
横山　バタヤンていうんだ。  
母　バタヤン？　おお、田端義夫ね。似てる、似てる、オーツスで。  
横山　俺、ちよっと本屋寄ってくから、先帰ってよ。  
母　いいじゃない。一緒に帰れば。  
横山　いいよ。金くれよ。

そこに下校中のハツパと滝川先輩が通りかかる。

ハツパ　面談だったの？（母に）こんにちは。  
母　ああ、中島さん。どうも。

二人は通り過ぎて行く。

母　アラ、彼かしら。アベック下校だわ。  
横山　知らねえよ。  
母　進んでるわね。中島さんは外国生活長いからね……頭もいんでしょ？  
横山　でも女のくせに、そんなに出来てどうすんだろね。  
母　いいから、金。  
横山　（金を渡しつつ）で、父上には何ていいますか？  
母　しょうがねえじゃん。現実だよ。  
横山　十で神童、十五で天才、二十歳過ぎたら、ただの人？　三流大学行くぐらいなら、コックになれっていわれるわね。  
母　コック差別だよ。コックさん協会に殺されるぞ。  
横山　370人も抜ける？  
母　だから、東大なんて書くなっていっただろ。  
横山　だって、母の夢だもの。なってみたいもの、東大生の母。ならせてくれたら、十年遊ばせてあげるわよ。いいもん、十年、東大生の母できたら。

横山　馬鹿じゃねーの。もう帰れよ。

母　まあ、始まったばかりだから、これからよ、ね。あんた、成績苦にし

てグレたりしないで下さい。

横山　グレるよ。絶対、グレてやる。新宿とか行ってやる。

母は一人帰る。

そこに3年生の近藤先輩と、2年生の塩尻先輩が来る。

塩尻先輩　お、横山少年。

横山　あ……塩尻先輩、おはようございます。

塩尻先輩　そういえっていわれたの？

横山　はい、芸能界の礼儀だと。

塩尻先輩　恥ずかしいから、町中ではやめなよ。

横山　はい。

塩尻先輩　部活は？

横山　いえ……

塩尻先輩　本当に名前だけなんだ。

横山　すみません。

塩尻先輩　いいよ、助けて貰ったんだから。こっちがお礼いわなきや。

横山　でも、まだ足りないらしいです、一人。

塩尻先輩　そうか……

横山　あの……

塩尻先輩　ああ、3年の近藤先輩だ。もう引退だけどね。今日は、芝居に行くんだ。

近藤先輩　お、名前だけ部員の横山少年か、芝居観たことある？

横山　いえ。

近藤先輩　来いよ。奢るよ。演劇部を助けてくれたお礼だ。

横山　でも……

塩尻先輩　奢って貰え。近藤さんは神だから。

横山　でも、何か演劇って、ボクどうも……

近藤先輩　絶対、面白いから。つかこうへいの「熱海殺人事件」だ。

横山　知りません。有名な人、出るんですか？

近藤先輩　五木ひろしショーじゃないだから。まあ一杯だと思うけど、通路に座ればい

いよ。

横山　通路？

近藤先輩　階段に座布団敷いて、すし詰めで観るんだ。

塩尻先輩　でもそれがいいんだ。紀伊國屋は。

横山　え？

近藤先輩 新宿の紀伊國屋ホールだ。  
横山 新宿？ 今から行くんスか？  
近藤先輩・塩尻先輩 そうだよ。  
横山 このままですか？  
近藤先輩・塩尻先輩 うん。  
横山 いいんですか？ だって、保護者なしで、新宿なんか。  
塩尻先輩 小学生じゃねえんだからさ。  
横山 ……  
近藤先輩 家がうるさい？  
横山 いえ……………  
近藤先輩 無理ならいいよ。怒られちゃ、可哀相だし。  
横山 いや、家なんか関係ないスよ。はい。もう高校なんスから……………行きます、オレ。  
新宿、平気です。  
塩尻先輩 無理すんなよ。  
横山 いんです。連れてって下さい。お願いします。新宿に！  
近藤先輩 無理すんなって。  
横山 無理してません。  
塩尻先輩 無理してるだろ。  
横山 してません！  
近藤先輩 一本気な少年だねえ。  
横山 よしっじゃもう、今日は帰れないかもしれませんね。家出だ、これは。  
塩尻先輩 帰るよ、馬鹿。新宿だよ。  
横山 だって帰りの電車が……………  
近藤先輩 小田急だよ。相模線じゃないんだから。  
塩尻先輩 十二時まで動いてるよ。

などといいつつ、二人は駅に歩いてゆく。  
入れ代わってシユウケイ現れ、語る。

シユウケイ 進学校なんていったって、東大に10人程度のことなんです。でも、ゼロじゃないから、目標ではある。ここで皆、選択を迫られます。つまり、あくまでもエリートにこだわるのか、それとも他に打ち込むものを捜すか。しかし打ち込むものを捜すと言ったって、これがなかなか難しい……………横山の場合はラッキーだった。

チャイコフスキーの『白鳥の湖』が響く。

そこは紀伊國屋ホールの舞台。

鬼刑事・木村伝兵衛が立ち、あの頃の『熱海殺人事件』の冒頭の名セリフを三浦洋一風に叫ぶ。

そこに横山が芝居の登場人物になりきって現れる。

木村伝兵衛 誰だっ！

横山 富山県警より、本日付けで警視庁捜査一課に転任になりました、

熊田と申します。

木村伝兵衛 熊田？

横山 留吉です。

木村伝兵衛 あなたでしたか。富山県警きつての切れ者だと聞いてますよ。

横山 木村伝兵衛部長刑事はおられますか？

木村伝兵衛 私ですが。

横山 ずいぶん、お若いんですねえ。

音楽盛り上がり、木村は名ゼリフを叫びつつ消える。

そこは放課後の日組の教室である。

しかし横山は変わらずテンションが高く、張ケ谷が呆れて見ている。

横山 部長が三浦洋一で、熊田が平田満ね。テレビなんか出てねえよ。でも凄エんだ。

それで、熱海でブスを殺した犯人が紀伊國屋の客席から『マイウェイ』歌いながら出てくんだよ。加藤健一。でも犯人は怒られるんだ。熱海でブスなんか殺して恥ずかしくねえかって。大山金太郎は反論する。「ブスの何が悪い！」そしたら部長が言うんだよ。「ブスに人権があるかあ！」

(笑って)面白いだろ？ な？

張ケ谷 全然、わかんねえよ。

横山 面白くないか？！

張ケ谷 だって、お前一人で興奮してるからだよ。

横山 興奮するんだよ！ とにかく、凄エんだから。だから、なア、張ケ谷、

お前も演劇部に入れ。これからはエンゲキだ。

張ケ谷 嫌だよ。

横山 まだわからんか。じゃあ、クライマックスをやってやる。

張ケ谷 もういい、よくわかった！ でも、俺はやんねえ。

横山 一人足りねえんだよ。潰れちゃうんだ、このままじゃ。

張ケ谷 他を捜せよ。岡本入れろ、岡本。

横山 岡本……

張ケ谷 剣道やめたとこだ。

横山 嫌いなんだよ、オレ、あいつ。何か暑苦しいじゃん。態度でかいし、大袈裟だし。

張ケ谷 とにかく、俺はダメだ。

横山 何で？

張ケ谷 だから、やることあるっていつてんだろ。

横山 何だよ、いえよ……嘘だろ。

張ケ谷 嘘じゃねえよ。

横山 なに？

張ケ谷 革命だ。

横山 は？

張ケ谷 革命。

横山 学生運動？ そんなもん、あんの？ どっか行ってやんの？

張ケ谷 バカ、今、俺たちがいるココを変えなくてどうすんだよ。

横山 何を変えるの？

張ケ谷 矛盾があるだろ、いろいろと。一緒にやるか？

横山 いや、俺はそんなの……お前、凄いな。

張ケ谷 岡本がいいよ。今時珍しいぞ、強さを売り物にするなんて奴。今はよオ、みんな、自分の弱さばっか売り物にしてんじゃん。太宰みたいにさ。

横山 でも、岡本は水泳部に入ったんだよ。何か、胸のデカイ先輩がいんだろ、女の、それにひかれて。

張ケ谷 何だ、それ。

そこに岡本が来る。なぜか腕を吊っている。

張ケ谷 どうしたんだ？

岡本 プールに突き落とされた。

横山 何で？

岡本 態度がデカイと突き落とされた。それはいい。だが、問題は、そのプールに水が入ってなかったことだ！

張ケ谷 明らかな殺意だな。よく生きてたな、お前！

岡本 やめだ、やめだ、水泳はやめだ！

張ヶ谷と横山、思わず顔を見合わせる。  
音楽がバーツと鳴って、ライトがパツと変わる。

『太陽がいっぱい』のテーマが響く。  
再び紀伊國屋ホールの舞台。

木村伝兵衛　この俺に触るんじゃねえ！

木村伝兵衛が花束を持って現れ、その花で大山金太郎をしたたか打ち付ける『熱海殺人事件』の名シーン。

(抜粋にて一部上演)

やがて迎えるラストシーン。

木村伝兵衛、静かにタバコをくわえ、火をつけて、

木村伝兵衛　うん、いい火加減だア！

音楽はビートルズの『オール・マイ・ラブリング』に乗り替わり、紀伊國屋ホールの幕が下りる。

その幕前に横山と岡本が駆け出してくる。

岡本　凄いベエ！

横山　そうだろ？　な？　な？

岡本　感動したベエ！

横山　したろ？　な？　したろ？

岡本　俺は今、わかったよ。

横山　何だ？　いえよ。いえよ。

岡本　俺はもう、演劇をやるしかねえべ。

横山　そうか……

岡本　やるべえ、演劇。

横山　やるべえ、やるべえ。手は？

岡本　もう治った。

横山・岡本　やるべ、演劇！　それっきゃ、ねえべ！

そして二人、熱く去る。

シュウケイ現れ、語る。

シュウケイ　こうして演劇部は廃部の危機を脱しました。それどころか、この二人を中心

にかなり活発な部になったのです。横山が台本を書き、岡本が主演した芝居がコンクールを勝ち抜き、ついに全国大会にまで出場することになります。でも、それは後の話です。ここではもう少し、あの頃、学校で起こったことをお話します。ボクのいたクラスでの出来事です。

A組（男女混合クラス）の教室。  
英語の新任教師・池田まり子先生の授業中。  
シュウケイも他の生徒たちとともに席に着く。

まり子先生（教科書を読む）

すると途中で堀江美也子が手を挙げて立ち

堀江 先生。

まり子先生 なに？・

堀江 先生の発音、酷過ぎます。

まり子先生 どころが？

堀江 全部です。日根さんはバイリンガルですから。ね、日根さん？

日根よしこは、黙って下を向く。

堀江 日根さん、いおうよ。ねえ。

日根 ……

堀江 先生の発音じゃ、たぶん伝わらないそうです。はっきりいって、教え方も下手だ  
と思います。ね、日根さん？

日根 ……

まり子先生 一所懸命やってるつもりだけど、わかりにくいところがあったのなら、謝  
ります。おかしなところがあつたら、その時、言っして下さい。

するとガリ勉の高山陽介も発言し。

高山 内容、薄い。教科書なぞってるだけ。

まり子先生 ……

高山 大町先生はイデオムとかやってるって。差がつくのは困る。僕ら、先生、選べ  
ないでしょ。

態度の悪い垣戸敦が茶々を入れる。

垣戸 先生！ 先生は日体大ですか？

まり子先生　違います。

垣戸　だったら、セーフです。

生徒たち、笑う。

まり子先生　静かに！

一同　……

まり子先生　私の英語はそんなに変ですか？　日根さん？

日根　……

陰険な野口君男が立ち、

野口　下手なのはしょうがないけど……途中で映画の話とか、学生の頃の話とかするでしょ。あれ無駄だと思います。

まり子先生　息抜きのつもりなんだけどね。

野口　つまんないし、いい。

まり子先生　わかりました。もうしません。

パラパラと意地悪な拍手が起こる。

まり子先生　でも、私としては、そういうのも将来、何かの役に立つんじゃないかと思

って……学校は勉強だけのところじゃないでしょう？

「シート」という声。

まり子先生　続けます。(教科書を読む)

だが、ふいに声を詰まらせ、泣き出して教室を出て行ってしまふ。

垣戸　あー、泣いちゃったよ。おい、関水、慰めて来いよ。お前、まりちゃん好きなんだろ。

関水　やめろよオ。

垣戸　バカ、夢見て夢精したんだろ。

関水　いなよオ、そんなこと。酷いよオ……

一同、笑う。

堀江 よっちゃんと言いだしたんだよ。変だつて。いってよ、ちゃんと。  
日根 ごめんなさい。うう……(泣く)  
堀江 アタシだけが悪いみたいじゃない。陰険だよ、よっちゃん。  
日根 ごめんなさい。うう……(泣く)

日根、ハンカチで涙を拭いている。  
そこに体育科の橋田先生が来る。

橋田先生 こら、お前ら、何やったんだ！

一同 ……

橋田先生 お前らなア、いくら勉強が出来たってもよ。いくらいい大学入ってもよ、精神がちゃんとしてねえと、どうにもなんねえだろ。なア？

一同 ……

橋田先生 鉛筆を置いて聞け！ 君たちは優秀だ。将来はみんな、おそらく人の上に立ち、この社会を引っ張ってゆく立場になる人たちだ。だからこそ、お前らはよオ……その昔なア、インドのこっち側に島があんだろ。ここになあ、それはそれは偉い王様が居たんだそうさ。ほれ、何て島だ？ 紅茶のとれる……

野口 スリランカ。

橋田先生 ばか！ セイロンだ！ セイロン。

野口 同じ国です。呼び名が変わっただけです。1972年に。

一同、爆笑。

橋田先生 とにかく。お前ら、もっと大人になれと言うことだ。漸次自習だ。

野口 は？

橋田先生 ゼンジ、自習。しばらくという意味だ。

野口 それなら暫時(ザンジ)です。ゼンジは「じわじわ」という意味です。

垣戸 じわじわ自習すんだ？

大爆笑。

橋田先生 黙れ！

と垣戸を出席簿で叩いて去る。

垣戸 何で叩くんだよ……

生徒たち、笑い転げている。

垣戸 まったく日体大はよオ。ピーマンだよ、頭、ピーマン！

笑いのうちに皆、去って行く。

関水輝夫とシュウケイ、それに少し離れたところに泣いている日根だけが残される。

関水 シュウケイ、俺、何かおつかねえよ。

シュウケイ ……

関水 みんな、怖えよ。陰険だよ。みんな。

シュウケイ ……

関水 仲良く出来ないのかな。楽しくさ。みんなで一つの船に乗るみたいになさ。

シュウケイ 嫌だよ、そんなの。

関水 だって、仲間じゃん。

シュウケイ 仲間じゃねえよ、別に。

関水 そんなこといって、もしこのまま漂流したらどうすんだよ。漂流教室みたいにさ。  
一番漂流してほしくねーよ、この教室。

関水は去る。

日根はまだ泣いている。

シュウケイ、机から広辞苑を出し、

シュウケイ 岩波によれば。「陰険……表面はよく見せかけて、心のうちではよから

ぬ考えをもっているということ。はらぐろ」

暗転

体育館での生徒総会。

壇上で議長を勤める滝川先輩。

その近くで記録をとっているハッパ。

滝川先輩

静粛に。只今より52年度、第1回生徒総会を始めます。今日の議題は大切なものばかりです。皆さん、デル単など読むのはやめて、積極的に参加して下さい。では第一の議題「スポーツバッグの常時使用の許可」について討議を始めます。

「議長！」生徒席から声上がる。

滝川先輩

はい。

そして張ケ谷が壇上上がる。

張ケ谷

1年H組、張ケ谷です。

滝川先輩

議題の提案者ですか？

張ケ谷

違います。でも、この総会自体について提案があります。緊急動議です。

滝川先輩

……

張ケ谷

はつきり申し上げます。この総会は茶番です。なぜなら、本校のシステムの中では、生徒総会の決定は、何の実効力ももたないからです。

滝川先輩

待って下さい。茶番というのは極論です。我々の決定は、ある程度、尊重されています。

張ケ谷

それが幼稚なんです。そうやって、学校側に飼い馴らされているってことに気付かなきゃダメなんです。

滝川先輩

張ケ谷君、一旦、席に戻して下さい。

張ケ谷

ここに、資料があります。参考のためにお聞かせします。我が校の校歌についてですが、2番「いざ国進めん、雄々しく猛く」という歌詞。実は昭和6年の制定時には、別の歌詞でした。

滝川先輩

張ケ谷君。

張ケ谷

実は、この部分は「いざ国」ではなく「いざ我」だったのです。それが国という言葉に変えられたのです。いうまでもなく、戦時中の軍国教育によるものです。しかし戦後30年を経ても尚、元に戻されることなく、そのまま歌われているのです。おかしいと思いませんか？ 実は、この歌詞を元に戻そうという運動が7

年前にありました、しかしそれは……………

あちこちらから「シート」という声が響き始める。

張ケ谷 大事なことです。みんなも一緒に考えて下さい。ちゃんと聞いて下さい。

滝川先輩 張ケ谷君、議長命令です。席に戻して下さい。

「シート」という音はますます大きくなってくる。

滝川先輩 みんなも静粛に！ ちゃんと言葉で話し合いましょう。

ハッパ 静粛に！

だが「シート」はやまない。

張ケ谷 7年前の運動は学校に弾圧されました。そして、以降、生徒が自発的に集会を開

くことは禁じられ、この幼稚な総会だけが学校側主導で用意されたのです。どう  
です、皆さん？

「シート」の嵐。

張ケ谷 真面目に考えて下さい。

演台を叩く張ケ谷。「シート」が止まる。

張ケ谷 我々の学校のことです。君たちには自分の意思がないんですか？

「シート」「シート」「シート」

張ケ谷 意見があるなら堂々と言って下さい。議論しましょう。

「シート」「シート」「シート」

張ケ谷 ……

張ケ谷は、議論をしようと必死に生徒たちに訴えかけるが、  
やがて張ケ谷は言葉を失い、「シート」の嵐に晒され、立ち尽く

す。

張ヶ谷めがけて紙飛行機などが投げられる。

そのうちに張ヶ谷はついにそこを立ち去る。

シュウケイ現れ、語る。

シュウケイ

生徒総会では、ボクらの学年で、もう一人有名になった男がいます。美術

部の宮城次郎という男です。この男はハナから議論なんかするつもりは持っていません。ただいかに目立って、ウケるか。それだけが彼の興味でした。

宮城次郎が怪しげな博士のような扮装をして登場する。

宮城

こんにちは、厚木産業大学のドクター宮城です。

生徒たち、ウケる。

滝川先輩

発言者は変な恰好はやめて下さい。

宮城

人を見掛けで判断してはいけません！ 私は真面目だ！

生徒たち、拍手。

宮城

私はこの学校における美化促進と、生徒諸君の速やかな初体験実現のために、二つの提案を致します。まず第一に、美化の問題です。

本校において、校内の風紀を著しく乱し、品位を落としているのが、体育科教師であることは、皆さん、すでにお気付きのことでしょう。

彼らは、この水不足のおり、水道の水をじゃぶじゃぶ使って、自分たちの車を洗っています。それも、授業の空き時間にです。彼らには予習の必要がないのです。それに、体育教官室は現在、グラウンド横にあります。ここに管理の目が届かず、無法地帯となっていることは、皆さん、すでにご存じの通りです。そこで第一の提案、私は至急、体育教官室を校長室の隣に移転させることを提案致します。

大拍手。

宮城

続きまして、本校における男女交際率の著しい低さについて、考察したいと思います。

そこに体育科の橋田が来て、宮城の耳を掴んで、連れ出して行く。  
生徒たち、拍手と笑いで送り出す。

シュウケイ

この後、宮城は体育教官室に連れてゆかれ、拷問を受けました。しかし、この時から宮城の総会パフォーマンズは名物となり、ボクらもそれを楽しみにするようになりました。思えば、若者の気質が変わり始めた頃でもありました。相変わらず、シラケてはいたけれど、笑えることなら許してやる、というムードが起こっていました。漫才が大人気となり、お笑いブームに火がつくのは、この一、二年後のことです。

下校途中、畑の端に一人佇む張ケ谷。  
横山、現れ、その隣に立つ。

横山 偉いと思うよ。一人で闘ってたもん。

張ケ谷 ……

横山 出来ねえよ、いくら正しいと思っても、黙っちゃうよ、俺なら。

強いよ、ハリ。太宰じゃねえよ、三島だな。

張ケ谷 三島は右翼だ。

横山 そうか……

張ケ谷 これ、聞く？

張ケ谷はレコードを持っている。

張ケ谷 『ホテ・カル』。

横山 知らない。

張ケ谷 イーグルス知らねえ？ 『ホテル・カリフォルニア』。

横山 あ、聞いたことある。

張ケ谷 幻想の終焉だ。

横山 え？

張ケ谷 70年代初め、イーグルスは西海岸の明るい希望の象徴だった。

だが、このアルバムでその夢の終わりを宣言した。

横山 聞くわ。

張ケ谷 俺の闘いも終わりだ。

横山 辞めるのか、革命？

張ケ谷 方針転換だ。よくわかったよ、今って時代は、マトモにやってもダメだ。俺たちにウッドストックはねえ。

横山 何、それ？

張ケ谷 ベトナム戦争に反対して、何十万の若者たちが音楽集会を開いたんだよ、アメリカのウッドストックで。

横山 ふうん。

張ケ谷 今のままじゃダメだ。今の俺が何をやってたって、無視されるだけだ。

今の俺は何者でもねえからな。そうだろ？ まず、無視できねえ存在に  
なんなぎやダメだ。

横山 ……

張ケ谷 受験するよ、俺。

横山 え？

張ケ谷 今から、始める。それで東大に受かってやる。現役でさ。

そんなでさ、黒く塗り潰してやんだよ、あの玄関の張り出しを全部よォ、真っ黒に。大学合格者氏名をさ。

Paint It Blackだ。どうだよ？ 東大合格者がそれをやんだ。

横山 カッコイイよ、それ！

張ケ谷 法政だの、横国だのが何いってもダメなんだよ、ここじゃさ。東大だよ、東大。

東大がいえばみんな、黙って聞くんた。

横山 でも、ハリ、行けるの？ 実力、何番？

張ケ谷 65番。

横山 スゲー。やっぱ、頭いんだな、お前。

張ケ谷、タバコ取り出し火をつける。横山にも一本差し出すが、

横山は首を振る。

張ケ谷 演劇人だろ。

横山 ダメなんだ。気管支炎で。

張ケ谷 サエねえな。

横山 悪イ……でも頑張れよ、それ絶対、いいよ。

張ケ谷 お前もな。

横山 おお。

『ホテル・カリフォルニア』聞こえて来る。

少し離れて二人を見ていたシュウケイ、語り始める。

シュウケイ ここから話は1年半飛びます。2年の終わりから、3年になる辺りです。

この間も、変な事が色々ありました。長くなるので飛ばします。一方、演劇部は関東大会で優勝し、8月の全国大会への出場を決めました。

では、ここで、その時の作品「山椒魚だぞー」の一部を扉座・研究生の皆さまの出演で、ご覧頂きましょう。

『山椒魚だぞ!』抜粋にて上演

演劇部員たち登場。一列に並ぶ。

部員たち

おはようございます! よろしくお願いします!

部員たちそれぞれの位置につく。

蓮見

はい!(手を叩く)

音響

いきまーす!

音楽。

杉山

私は青春にむなしさを感じる。今、何してる?

小川

レコード、聞ってる。

杉山

何のレコード?

小川

波の音……カリブ海の波の音。

杉山

えー!(音楽カット) 榎原郁恵じゃないのか。

小川

あんな低次元なもの。

杉山

低次元!?

小川

低次元ですよ。愛だとか恋だとかねえ……(セリフを囁む)

部員たち

ドンマイ。

小川

愛だとか恋だとかねえ、あんなもんは嘘ですよ。青春なんて歌か小説の中の話。

杉山

夢がないなア。

小川

そんな事言ってもダメですよ。雪の降る日に傘もささずに別れの言葉、とかもう

杉山

どうしてだよ。美しいじゃないか。

小川

あの人はねえ学校行っても全然勉強しないんですよ。授業中キャッチボール

杉山

やっているんですよ、キャッチボール。

小川

青春だぞ。

杉山

青春だぞ。

小川

ホラ、またすぐその言葉で逃げようとする。

杉山

お前よオ……(セリフを忘れる)

プロンプ

青春に。

杉山

青春に何かかけるもんがあんのかよ。

小川 ふりかけですか？

蓮見 はい！（手を叩く）

杉山・小川 ありがとうございます！

部員たち お疲れ様でした！（プロンプターに）ナイスフォロー！

部員たち、次の位置につく。

部員たち 宜しく願います。

蓮見 はい！（手を叩く）

音響 いきまーす！

音楽。

リーダー へい！ 青春は二度とないぜエ！ つっぱしれ！

ザ・スコープions、踊る。

リーダー へい！

暴走族 A へい！

暴走族 B へい！

山地 へい！

カットアウト。

リーダー お前ら新入りか、なんかノリが悪いなあ。

小川 先輩……。

杉山 なんですか、あなた。

暴走族 B てめえ、誰にむかって口きいてんだよ！

暴走族 A 厚木スコープionだよ。

リーダー いいか。走る為にはなあ、修業がいるんだよ。

暴走族 A 座り一年。

暴走族 B ガム二年。

暴走族 A B 三四がなくて、

リーダー あと礼儀な。よし、お前ら座ってみろ。

暴走族たち 座れよ！

杉山・小川、座る。

リーダー　　バカあぐらかいてどうすんだよ。座るっていうのはなア、こうやるんだよ。

スコープions、やって見せる。

蓮見　　はい！（手を叩く）

暴走族たち　　ありがとうございます！

蓮見　　気持ちつくってー。

部員たち、次の位置へ。

部員たち　　集中……

蓮見　　はい！（手を叩く）

群集シーンへ。

部員たち　　（口々に）何かないかなア！

蓮見　　僕にもいっばい言いたいことがあるんだよ！　いっばいっばい、あるんだよ！

群集は思い思いの方向や対象に叫び続ける。

全員　　僕にもなにか、言わせてくれよオ！

そこに岡本が現れる。

岡本は手を叩いて、芝居を止める。

岡本はなぜかサングラスなどかけている。

岡本　　やめちゃえ、やめちゃえ。いつまでも山椒魚じゃねえだろ。いいか、これは全部、つかこうへいのパクリだ。つかこうへいに、東京キッドブラザースのクツセエ、汗と涙を足しただけだよ。高校演劇なんて馬鹿ばかりだから簡単に騙せんた。だがな、こんなものは本当のドラマじゃねえ。俺は関東大会に行つて、文学座の人とかとも知り合ったからよ。それで語り合ったりして、本当のドラマっちゅうもんを知つたんだ。ここだけの話、来ないかと、声もかけられてる。だからもう違うんだ。はつきりいって、恥ずかしいよ、このままじゃ。だから、今年の春

の北相大会は俺が作・演出して、本当のドラマをやる。いいか。横山の芝居は忘れろ。あんなのは芝居じゃねえ！

そこに横山、駆けつける。

横山 岡本、何やってんだよ！

岡本 何だよ。

横山 春の大会は下に任せろよ。そういう伝統だろ。

岡本 (不敵に笑う)

横山 何だよ、そのサングラス。馬鹿。

岡本 俺がやるのがそんなに怖いか？

横山 キマリなんだよ。

岡本 芸術にキマリなんかねえ。俺がやるのがそんなに怖いか！

横山 部活なんだよ。

岡本 だから、お前は所詮、高校演劇止まりなんだ。

横山 な、何だよ。

岡本 文学座の人がそういつてたよ。面白いけど、あくまでも高校生として

のことだからねえって。

横山 別に……俺はいいよ。こんなもん高校だけで。

岡本 嘘つけよ。

横山 嘘じゃねえよ。俺はちゃんと大学出て就職すんだからよ。

岡本 まあ、その方がいいな。文学座の人いつてたもん。横山って坊やみたいだろ。

優等生に芝居は出来ねえってよ。

横山 別に。あんな貧乏人になりたくねえからよ。

岡本 素直じゃねえな。お前、そういうところが坊やだぜ。

横山 うるせえよ。テメエはよオ……じゃいうぞ。いいのか、テメエ！ この手紙は何だ、これは！ (一通の手紙を出す) 俺ン家に来たんだよ。俺の住所が会報に出たからな。どっかの女子校の生徒からだよ。こん中によオ、お前に渡してくれて手紙が入っててよ。俺は中読んで、死ぬかと思っただぜ。

岡本 何だよ？

横山 いいか。(読んで)「岡本宣也様。『山椒魚だぞ！』の作者は本当は岡本さんなのに、みんな、それを知らないのは悲しいです。でも、お友達のことを思って秘密を黙ってる岡本さんは素敵です……」おい、お前！ どういうことだ、岡本！ 何が秘密だ、お前、自分が書いたっていつて回ってんのか！

岡本 ……馬鹿ア！ 勝手に読むなんて犯罪だぞ！

横山 知らねえよそんなもん！ 俺は受験があるからな。全国もお前が勝手にやれよ。

俺はもう知らねえ。

岡本

わかったよ。全部、俺がやる。お前なんかどっか行っちゃえ！

(部員たちに)

見たろ、横山ってのはああいう奴だ。山地どう思う？

山地

(横山のことを悪く言う)

岡本

今、この瞬間からは俺が部長だ！

部員たち

えー……

岡本

なんだその反応は、殺すぞオ！

部員たち

殺さないでください！

岡本

鶴巻温泉までランニングだ！

部員たちランニングで去る。

季節が変わり……

桜がハラハラと散ってくる。

その下を滝川先輩とハッパが歩いてくる。

先輩は卒業証書の筒を持っている。

卒業だ。

あの頃のラブソングが聞こえてくる。

二人はじっと見詰め合う。

二人の間を過ぎ行く時のように落ちる花。

やがて滝川先輩は詰め襟の二つ目のボタンを取り、ハッパに差し出す。

ハッパは黙ってそれを受け取る。

そのまま暗転。

闇の中にインベーダーゲームの音が響く。  
ゲームセンター。

ゲーム機をはさんで横山と張ケ谷。  
張ケ谷は一心にインベーダーを打ち落としている。

横山 演劇なんかにかまけてる間に、こないだの実力じゃ、420番まで落ちちゃった。だがレクリエーションはもう終わりだ！ これからは受験だ！ でもま、ちょうど1年あるからな。今から共通一次は無理でも、私立なら間に合うだろ。なア、ハリ？ 後は大学行ってから、バイトして、免許取って、彼女作ってよオ。早稲田辺りなら、やり放題だってよ。

張ケ谷、全滅する。

張ケ谷 うるせえなア！

横山 聞けよ。

張ケ谷 勝手にやれよ……千円崩れねえ？

横山 もうやめろよ。シャノール行こうぜ、奢るからよ。

張ケ谷、三千円分をコインに替えてくる。

横山 何千円やっつんだよ。馬鹿になるぞ。

張ケ谷 オメーはお袋か？ 黙れ。

と再度、インベーダーに挑む。

横山 どうなんだ？ 大丈夫か、東大？

張ケ谷 ……

横山 P a i n t I t B l a c k ! 絶対やれよな。

また全滅する。

張ケ谷 名古屋打ちになってたのに……そばでゴチャゴチャいうな！  
横山 どうしたんだよ？

張ケ谷はまた挑む。

横山 まだこれからだろ。

張ケ谷 開成とかラサルは、教科書なんかとつくに終わってんだぞ。

奴らは残り一年丸々受験の準備だよ。どうやって勝つんだ？

横山 ……

張ケ谷 安全圏に入らねんだ、どうしても。70%を越えねえ。

横山 凄じじゃない。

張ケ谷 だからア……敵はもっと凄エんだよ。

横山 大変だな、東大は。

張ケ谷 馬鹿、私立だって同じだよ。早稲田なんて、簡単に行けると思っ

のか。代ゼミとか駿台とか行ってみろよ。落ち込むぜ。厚木なんか三流だ。

横山 ……

張ケ谷 (イラつき) ああ、もう！ 放っといってくれ、頼むからよ。

とまた挑む。

だが、その時、剃り込みリーゼントにボンタンの不良と、引き擦るほど長いスカートにチリチリ頭の不良女のカップルが二人の側に迫ってくる。

リーゼントとチリチリ頭はすぐ側に寄って、二人の顔をじっと覗き込む。二人は身を硬くして目を逸らすが……

リーゼント おい。おい……

チリチリ け、シカト。

リーゼント 返事くらいしろ、コラ。

張ケ谷 は、はい。

リーゼント ちよっとうるさかったね。

張ケ谷 はい、すみません。気を付けます。

チリチリ あれ？ こいつらアツギだよ、タケ。

リーゼント アツギ？

チリチリ こんなところ来ねえで、ガリ勉やってるヨ。

リーゼント 出せよ、オラ。持ってるだけ、出せ。

チリチリ 出せつつてんだよ、聞こえねえのかよ。

横山が思わず睨み返すと、

チリチリ ジョートーじゃん。やんのか、コラ。

リーゼント (凄んで構える)

横山 ……

張ケ谷 (持ってる金を出し) どうもすみません。お前も出せよ。

横山 何でだよオ!

張ケ谷 いいから。すみませんでした。

張ケ谷は横山の金も合わせて、差し出す。

リーゼントとチリチリはそれを受け取ると、ツバなど吐いて立ち去ってゆく。

張ケ谷 怪我したら、馬鹿らしいだろ。

横山 でもよオ……

張ケ谷 今だけだよ、今だけ。あいつらなんか、どうせ工員か土方になるしかねえんだからよ。そのうちオレらにコキ使われるんだよ、奴隷だ、奴隷。マンコしか娯楽がねえから、ボコボコ、ガキ作りやがってな。奴隷が奴隷生むんだよ。やらせとけよ。奴らの生涯賃金なんか、オレらの十分の一だ。偏差値ゼロだよ、偏差値ゼロ。人間未満だ、事故って死ね、馬鹿。

そしてカバンの中から、コインを取り出し、ゲーム機に投入し、

張ケ谷 (打って) 死ねよ、ノーテンパー。

横山 おい大丈夫か、ハリ……

張ケ谷 え? 俺、歪んでるよ。もう、グニャグニャよ、グニャグニャ。歪むぜ、そら。当たり前だろ、朝から晩まで、勉強かセンズリしかしてねんだぜ。まともでいられる方が気違いだよ、そんなもん。だけどよオ、今の時代、大学ぐらい出てなきヤクズだぞ。受験が人格歪めるなんていつてもな、学歴なくて苦労する方がよっぽど歪むんだよ。(打ちつつ) ほら、またいっばい低能どもが出てきたぜ。死ね、低能!

そこにハツパが来る。

ハツパ こんなとこいたんだ。やっとみつけた。

横山 ……

ハツパ ねえ、健一さん、お願いがあるの。君しか、いないんだ。

横山 何？

ハツパ 戸陵祭。今年はミナトヤ君頑張って、いろいろと新しくしようとしてるじゃない？ お祭のためだけに会長になった人だしさ。それで頑張ってたんだけど、後夜祭がポイントだったことになったのね。

だって後夜祭がシラケたら、台無しじゃん。でも今まで通りじゃ、絶対、シラケるでしょ？ 変えたいんだよ。

横山 それで？

ハツパ やってくんない？

横山 何を？

ハツパ 後夜祭の企画委員。

横山 え？

ハツパ わかってる。全国大会があんだよね。でも大会は8月でしょ。

これは7月15日の後夜祭までだから。考えて欲しいのよ、盛り上げる企画を。

横山 でも……

ハツパ お願い健一さん！（と、手を握って拝む）

横山 待ってよ俺、勉強しなきゃ。

ハツパ えーっ！

横山 そもそもミナトヤってよく知らねえんだよ。話したこともないし。

そこに生徒会長の湊谷康洋（ミナトヤ）がやって来る。

ミナトヤ 健一がやるっきゃねえべ。

横山 ……

ミナトヤ このまんま高校終わったら、つまんねえじゃん。そう思わねえ？

横山 でも俺、受験がさ……

ミナトヤ 健一の成績は知ってるよ。だって、一緒に追試受けたことあんじゃん。数学と英語。学年の馬鹿だけ集められて。

横山 だから、早く挽回しねえと。

ミナトヤ・ハツパ もう無理だよ！

横山 何だよ、お前ら……だいたい、お前、俺と話すの初めての癖に。

ミナトヤ 回数じゃねえべ、付き合いは。深さだべ。

横山 これ、深いの？

ミナトヤ だって非常事態だもんよ。人生の重大事だべ、学園祭は。それがお前、このままじゃ、ドツチラケで終わりそうなんだぜ。なあ？ もうシラケてる時じゃねえって思わねえ？ つまんねえよ、シラケてんのは！ 健一だって、演劇で、そう

いうこといってたろ。歴史に残る文化祭りたくねえ？

ハツパ　ね？　いいでしょ？　そんなふうに思って、文化祭やった人なんかいないよ、今まで。ミナトヤ君、偉いよ。

ミナトヤ　でも、俺、馬鹿なんだ。

横山　俺も馬鹿だって。

ミナトヤ　だから、馬鹿は馬鹿同士、世の中のお役に立つべよ。勉強は出来る奴に任せよ。大丈夫、みんな俺達の分も頑張ってくれるって。

張ケ谷、全滅し、また新たなコインを入れる。

ミナトヤ　なア、俺らは戸陵祭やるつきやねえって。

横山　俺はなア、ちゃんと受験するんだからな。

ミナトヤ　おお、するする。

横山　大学行くんだからよ。

ミナトヤ　おお、行くべ行くべ。

横山　わかった、やるよ。

ミナトヤ・ハツパ　やったー！

喜ぶ、ハツパとミナトヤ

横山　でも俺、一人じゃ無理だよ。手駒をくれよ、手駒を。

ミナトヤ　おお、誰が欲しい？

横山　宮城次郎。

ミナトヤ　宮城か。あいつ何組になった？

ハツパ　Dだよ。私と健一さんと一緒。

ミナトヤ　そんなじゃ、すぐに頼むべ。

ハツパ　でも、あの人、そんなことやる？　すっごい変わり者なんですよ。

横山　変わってる。俺が言っても、絶対にやらないと思う。それで、たぶん、俺たちのこと馬鹿にして、笑い者にしようとする。

ミナトヤ　そんな奴に頼むのか？

横山　でも、あいつ、面白いんだよ。

ミナトヤ　面白いの？　じゃあ絶対必要じゃんよ。俺が言うよ、宮城に。

横山　いや、ますますダメだと思う。

ミナトヤ　どうすりゃいいんだよ。

ハツパ　わかった。私、頼んでみる。

ミナトヤ　よっしゃ、話がまとまったべ！　オツケー。行くべよ、シャノアール。

と、ミナトヤとハツパは先に出る。

横山　じゃ、ハリ、俺、行くわ。

張ケ谷　おお。

横山　頑張れよ。

そして三人は去る。

張ケ谷は一人残り、インベーターを退治している。

シュウケイ現れる。

シュウケイ　卒業後、張ケ谷は横山に手紙を書きました。そこにはこう書いてありました。「総会の時の『シート』の嵐がすべてだった。あの時、俺は死にそうな程の恐怖を感じた。『シート』は俺を押し潰す壁だった。あの恐怖が俺を変えた。あの時から、すべて怖くなった。高校ではもつといろんなことをやるつもりだったんだ。でも、それに打ち勝つ強さを俺は持てなかった……」

張ケ谷の姿、闇に消える。

シュウケイ　さて、ハツパが宮城に協力を頼んでみると、拍子抜けするほど簡単に宮城は引き受けた。それどころか、奴は妙に積極的だった。

学校の廊下でハツパが宮城を捕まえている。側には横山。

宮城　ああ、いいよ。

ハツパ　有難う！

宮城　で、何をすればいいの？

ハツパ　それはこれから。

横山　まず人集めだよ。

ハツパ　クラスでも呼びかけてみようと思ってるけど。

宮城　そんなもん、みんなでやればいいじゃん。多いほうがいいんだろ。

どうせ、うちのクラス何にもやんないんだから。

横山　でもやるか、みんな？

宮城　俺がいうよ。こうやって、仲間が何かやろうとしてる時に、手伝わないでどうすんだよ。ましてや、みんなの文化祭だろ。

ハツパ　宮城君って、いい人なんじゃん。

宮城　　そうよ。

シュウケイ　　（語りで）しかし、横山や宮城、ハツパとともにボクもいた私立文系コー

ス・D組は、すでに文化祭にはクラス不参加を決めていました。受験に備えて7月にやってしまう文化祭です。それでも3年生は参加をしないのが普通でした。

場面は急速に教室へ転換する。

3年D組。会議中。

横山、ハツパ、宮城、それに関水、日根、堀江、石田直子（ナオさん）とその他の生徒たち。

シュウケイは少し離れて立ち、その様子を見ている。

ナオさんが立って発言している。

ナオさん

私は今でもクラスで何かやった方がいいと思うんですけど、やっぱり、一度決めたんだから。全員参加を強制するのはおかしいと思う。

宮城

馬鹿！ だから、あの時は何もやるものがなかったからだろ。今はあんだよ目標が！も ういい、君たちは、何も考えずに黙って従ってください。

一同

ええ！

ナオさん

そんな横暴じゃん。

宮城

土人だ、土人。君らは土人だ。

ナオさん

意味不明だよ。

堀江が手を挙げて立ち、

堀江

私は出来ません。授業の後、予定があるんです。

宮城

ダメです。外して下さい。

堀江

予備校に行くんです。もう手続きも済ませてあるから。他にも、そういう人、いるはずですよ。

宮城

君ら、今までナンかやったか？この学校で、教師が作った問題に答える以外に。

堀江

それは価値観の押し付けです。自分の進路の方が大事な人だっています。

宮城

わかった。君らはうんこだ、うんこ。

ハツパ、立って、

ハツパ

わかった。やっぱり、有志にしよう。ごめん。もういいです。宮城君も有難う。

宮城

いんだよ、うんこは水に流せば。

ハツパ

ダメだよ。やっぱり希望者を募ろう。手伝ってくれる人、いませんか？ 出来る範囲で構わないんです。

誰も手を挙げない。

宮城 おい、関水！ 関水？

関水 ダメだよ。俺も勉強しなきゃ。

宮城 うるせえんだよ。はい、関水、立候補ナ。

関水 やめてくれよ、宮城。無理だよオ！

ナオさん手を挙げて、

ナオさん 私やる。

ハツパ 有難う。

宮城 他は？

しかし、他に手は挙がらない。

シュウケイ、語りつつイスに近付いてゆく。

シュウケイ その時まで、ボクは何もしていませんでした。一応、テニス部にはいたけど、補欠だったし、でも、それも引退して、いよいよ受験オンリーになってみると、本当に何も無い自分に気付いて……その時までボクは人に自分の気持ち

ちや意思を告げたことがあります。勉強は出来たから、学級委員もや

ったけど、いつも人から推薦されるのを待っていました。たとえ、自分でやり

たいと思っけていても……

でも厚木ではそれじゃダメだった。みんな、優秀だから。黙っているだけのボクは、ただの無口な奴でしかなかった……

そしてシュウケイはイスに座り、

シュウケイ 俺、やる！

日根 私、やります。

シュウケイと日根が同時に手を挙げる。

二人、思わず顔を見合う。

## 放課後の教室。

ハッパと横山、宮城、関水、ナオさん、それに日根とシユウケイ。

横山 俺は様々考えた。結果、わかった。問題はフォークダンスだ！

ナオさん フォークダンス？

横山 そう。途中のイベントについては、俺は自信がある。でも、問題はラストのフォークダンスだ。うちは何かかっていうとフォークダンスやるだろ。でも、俺はあれがガンだと思っう。

ナオさん みんな、踊らないもんね。

ハッパ 女子も少ないしね。でも全員でやるものは必要だよ。

横山 問題はそこだ。代わりに何をやるか？

宮城 別の踊りをやる。

ナオさん たとえば？

宮城 白虎隊だ。それしかねえ。

横山 白虎隊か

宮城 いいだろ。3年は授業でやってるしよ。みんなで扇子持ってやってみろ、壮観だぞ。

関水 嫌だよ、そんなの。カッコ悪いよ。

宮城 馬鹿、面白エじゃねえか、白虎隊。アレを授業でやってる体育科は偉

エぞ。俺、あれで、あいつら初めて認めたんだからよ。

関水 宮城だけだよ、あんなの面白がってるの。

ナオさん アタシ、結構好きだよ。

関水 え？

ハッパ 私も、小さい頃、日舞やってたし。

ハッパとナオさん「今日を限りの白虎隊」と歌いだす。

関水 みんな、変だよ。白虎隊で盛り上がる後夜祭なんてヤだよ！

宮城 何だ、お前、もうケエれ。

関水 何だよオ、そんなこというなよオ。

宮城 だいたい、オメー、嫌だったんじゃねえのかよ。

関水 嫌じゃないよ、別に。ただ受験がさ……うち、うるせえしき。でも、本心はやりたいたんだよ、俺だって。みんなと盛り上がりたいよ。仲間に入れてくれよオ。

ナオさん ねえ、よっちゃんも何かいいなよ。参加しよ。

関水 シュウケイもだよ。ねえ、嫌だろ、白虎隊なんか？  
シュウケイ ……

日根 デイスコ……

ナオさん え？

横山 デイスコ？

日根 映画も流行ってるし。

ナオさん サタデーナイト・フィーバーだ！ 観た？

ナオさん、全員に聞くが、全員、首を振る。

ナオさん デイスコ、行ったことある？

横山 あんわけねーじゃん。

ナオさん、全員に聞くが、全員、首を振る。

宮城 どんな踊りだよ？

ナオさん、全員に聞くが、全員、首を振る。

宮城 誰も知らねえもんでどうやって踊るんだよ、馬鹿。

日根 ごめんなさい……

ハツパ でも、ダンスパーティーなんて、アメリカのハイスクールみたいで、ちょっとイかもね。

関水 うん、そうだよ。映画みたいなやつ。

ハツパ ドレスなんか着たりしてさ。

ナオさん あるある！

関水 良いじゃんデイスコ！

ハツパ ね、行ってみよっか、みんなで？

ナオさん 入れるの、高校生？

ハツパ 制服で行かなきゃ、平気でしょ。

関水 ダメだよ。みつかったらマズイよ。

横山 だいたい、どこにあんだ？ 行ったことあるヤツいないかな？

ナオさん この学校にはいないんじゃない。

ミナトヤが現れる。

ミナトヤ　　そういうことは早く行ってよ。こんなことが役に立つとは思わないからさ。何だよ。もう……

横山　　行ったことあんの？

ミナトヤ　　毎週、行ってんじゃん。土曜日に。歌舞伎町の『ビバ』。

横山　　毎週？

ミナトヤ　　でも、さすが健一だべ。グッドアイデアだよ。んじゃ、いつ行く？ 今日でもいいよ。一人、千五百円で何とかなるべ。

ナオさん　　ディスコに？

ミナトヤ　　実際に見るのが早いべ。

ナオさん　　でも、服とかないよ、アタシ。

関水　　そんなの無理だよ、俺。

シュウケイ　　金ねえよ。

日根　　夜は無理です。

ミナトヤ　　朝までだよ。上高地で仮眠すんだ。

関水　　信州のー！

ミナトヤ　　そういうサ店があんだよ。

ハツパ　　それは無理だよ。親が行かしてくんないよ。

ミナトヤ　　そっか。

横山　　お前、凄いな。ディスコなんか行ってんの？

ナオさん　　大丈夫なの、受験とか？

ミナトヤ　　だって、俺は推薦決まってるもん。

横山　　何だよ、それ。

ナオさん　　どこに？

ミナトヤ　　専修。

一同　　専修か……

ミナトヤ　　どうよ、健一も？ あるぞ、拓殖とか。

横山　　拓殖……

ミナトヤ　　おい、それは違うだよ。世間一般に見たら、ちゃんとした大学だぜ。それを馬鹿にする基準が異常なんだよ。

宮城　　ここで踊ってくれよ、ディスコ。

ミナトヤ　　いいよ。じゃあ、簡単なやつな。

と、踊りを披露する

ミナトヤ　　そうだ。じゃ、仲間に来て貰おう。うまい奴がいんだ。ジョー&フレンズでの。

関水　　外人？

ミナトヤ 茨城人。でも、トラボルタだけ。俺らとタメだけど、左官やっててさ。夜は毎晩、踊ってんの。それで、仲間のアーヤってのが……ハツパさんごめん、ナオさんごめん、その知らない人ごめん……サセ子なんだよ。頼めば、絶対やらせてくれんだ。

ハツパ ミナトヤ君！

ミナトヤ だから、謝ったじゃん。でも、本当だから、まだの奴、お願いしろ。健一は経験あんの？

横山 何だよ。

ハツパ やめてよ、もう。

横山 ミナトヤは？

ミナトヤ 先月、片手った。

男たち おお！

ハツパ おい！

ミナトヤ とにかく呼ば、ジョー&フレンズ。それで何？ じゃ健一って、女の子と付き合ったこととかねえわけ？

横山 え？

ミナトヤ 告白とかはあんだろ？

ナオさん それはあるよ。だって、ミヤちゃんとも、ねえ。

宮城 ちょっと待て、ミヤちゃんて誰だよ？

ナオさん ミヤちゃんだよ。うちの組の。

宮城 堀江美也子か！ 俺に逆らった。価値観押し付けないで下さい、とかいった！

横山 おい、もう！

宮城 何だよ。付き合ってたのか？

横山 何でもねえって！

ミナトヤ マフラー事件だろ？ 去年のクリスマス、健一が堀江さんから手編みのマフラー貰ったけど、実は、それは堀江さんのお母さんが編んだやつだったっての。

横山 おい！

宮城 何だ、それ！ 本当かよ？ 関水、お前、知ってた？

関水 うん。

横山 え？

関水 わりと有名だよ。ね？

シュウケイ うん。

横山 な、何で？ 何だよオ。

宮城 待てよ、俺、全然知らなかったよ！

横山 知らなくていいよ、馬鹿！

日根 でも、そのことは、もうあんまり……

ナオさん そう。ミヤちゃんも悩んでるから……しょうがないから、もう言っちゃうけど、

健一さんも、許してあげなよ。あれ以来、全然、口きいてないでしょ？！

宮城 お母さんの手編みだったの？

ナオさん そんなのはいいのよ。家庭科の課題作品は母親がやるのが厚木の女子の伝統なんだから。健一さんだって、それを怒ってんじゃないもん。マフラーまでプレゼントしといて、すぐ撤回したんだよね。付き合う気はないって。健一さん、結構盛り上がったのね。

横山 本当におしゃべりだな、おばさん。

ナオさん でも、ミヤちゃんも、どうしていいかわかんなかったんだよ。初めてだったから。

日根 (頷く)

ミナトヤ そら、イカンベ、健一、大きな心を見せねーと。

宮城 悲しみのマフラーか……

横山 宮城、テメエ、余計なことすんじゃないぞ。

ナオさん でも、みんな、もう知ってるよ。

横山 何で知ってるんだよ！

ナオさん だって、あの頃、突然、マフラーして来たじゃん。そりや、噂になるよ。

横山 あの頃すでに？

ナオさん でも、すぐ、しなくなったんだよね。

宮城 わかりやすいべ。

横山 うおおオオ……(と悶え苦しむ)

そこに演劇部の後輩の女子、蓮見、野崎、黒江たちが来る。

蓮見 失礼します！

後輩たち 失礼します！

蓮見 横山先輩！

後輩たち 横山先輩！

蓮見 私たちもう演劇部をやめます！

後輩たち やめます！

横山 どうしたの？

野崎 岡本先輩のやり方、無茶苦茶です。

後輩たち 無茶苦茶です。

黒江 すぐ暴力を奮うし。

野崎 エコ鼻戻するし

蓮見 もうついていきません！ 今日なんか、発声に少し遅れただけで、私た

ちビンタされました。

野崎 親にもそんなことされたことないのに！

黒江 もう我慢できません！

後輩たち 我慢できません！

蓮見 岡本先輩のお芝居も、全然訳がわかりません！

後輩たち わかりません！

横山 岡本、どこだよ？ 部室？

横山は部室へ向かう。

後輩たちも続いて去る。

ミナトヤ 健一も大変ナ。じゃ、俺、お祭り広場の会議に出てんから。

とミナトヤも去る。

日根 ちょっと、ハツパさん、いい？

ハツパ なに？

日根 やっぱり、私、やめさせて。

ハツパ え？

ナオさん なに？

日根 役に立ってそうにないし。

ハツパ そんなことないよ、やろうよ。

日根 ごめんなさい。

ナオさん 何で？

日根 ……夜も遅くなれないし。うち厳しいから。

ナオさん うちだってうるさいけどさ。出来る時だけ来ればいいじゃん。

日根 それじゃダメ。みんなは一所懸命やってんだから。そんなのは嫌

とにかく、やめさせて。

ハツパ 嫌になっちゃった？

日根 そうじゃないの。ごめんなさい。

ハツパ 怒ってるんじゃないのよ。理由教えて。

ナオさん まあ、本人が嫌だったもの、ねえ……

日根は頭を下げ去る。

ハツパ 自分でやるっていったんじゃん。

ナオさん　でも、いんじゃない。向いてないよ、あの子。なんか暗いじゃん…

加藤君も暗いけど。

シュウケイ　え？

ナオさん　暗いよ。もつといろいろいってよ。盛り上げてよ。

ハツパ　そうだよ、シュウケイ君、全校を盛り上げんだよ。関水君もしっかりして。

関水　あ、はい。

シュウケイ　ごめん。俺、あんま、こういうの馴れてないから…でも、やるから。俺も、役に立たないかもしれないけど、絶対、やるから。

ハツパ　うん。頼むよ。

シュウケイ　うん。

宮城が一人出て行く。

ナオさん　どこ行くの？

宮城、立ち止まり、ニヤッと笑い、去る。

暗転。

薄暗い部室。

サングラスをかけた岡本、一人じつと椅子に座っている。  
そこに横山が来る。

岡本 俺はノイローゼだ。

横山 どしたの？

岡本 だいたいさ、作文とか書くの苦手なんだよね。読書感想文も誉められたことないし。そんな奴が、エンゲキの台本なんか書けると思うか？ それなのに、ずーつと、書けるようなフリなんしててみ。気も狂うって。何でもっと早く止めに来ねえんだ！

横山 何いってんだ、お前？

岡本 どうすんだよ、みんな、やめちゃってさア。全国大会。(と泣く)

横山 こっちが聞きてえよ。どうなってんだよ？

岡本 (小さい声で)ゴメンナサイ。

横山 え？

岡本 ごめんなさい。

岡本、正座して

岡本 ごめんなさい。もう二度としません。僕が悪かったです。だからなんとかして。

横山 何をだよ？

岡本 全国大会。わかった！ じゃあ、俺、今からな、死ぬまでだぞ！ 死ぬまで、横

山のこと、横山さんと呼ぶから。

横山 いらねえよ、何言ってるんだよ。

岡本 横山さんが一言いえば、収まるじゃん。あいつらだって、本当は行ってえんだよ。全国大会。ただね、ただ、あいつら俺の事が嫌いみたいなんだ。俺とやるのが嫌みたいなんだ。分かったから。俺そういうの良くわかったから。だから、全国まで、部活を離れて、横山さんの仕事手伝うワ。

横山 いいよ、来んなよ。

岡本 わかりました。じゃ、何もしません。

その時、チャイムが鳴って校内放送が入る。  
だが、その声は宮城である。

宮城の声

「生徒連絡を致します。D組の少女Mより、演劇少年ケンちゃんへ。プレゼントの白いマフラーがホントはママの手編みだったのは悪かったわ。そのお返しに私を映画に連れていってくれたのよね。でも、それが『宇宙戦艦ヤマト』と『スターウォーズ』の二本立て。しかも厚木ミラノ座。最初に流れるモーター・サガミのCMがとってもムード満点だった。けれど、それが最初で最後のデート。あれ以来、あなたは半年、口をきいてくれない。そんなケンちゃん、とっても怖いわ。早く機嫌を直して、あのマフラーをまた巻いて来て欲しい、その詰め襟の上に……生徒連絡でした」

チャイムが響いて、横山、その場に崩れ落ちる。

岡本、声を上げて笑い出す。

岡本 何だ、これ！ ぐへ、ぐへへへ……

横山 悪魔だ。あいつは悪魔だ……

岡本 全校に流れた。全校に流れた！

横山 あいつ、調べやがった。ミラノ座のことまで……笑い事じゃねえぞ。殺してやる。

お前も来い。

岡本 宮城か？ ぐへへへへ

横山 笑ってんじゃねえよ、馬鹿！

岡本 だってさア……ねえ、あのマフラーどこやったの？

横山 知らねえよ、そんなもん。

岡本 普通、巻かないよね、詰め襟の上に。ぐへへへ……

横山 うるせえよ。お前だって、詰め襟でサングラスなんかかしてたら。

岡本 でも母ちゃんのじゃねえもん。

横山 馬鹿、別に母ちゃんのをくれた訳じゃねえよ。一応、編んでくれたの。

でも、大変だったから、一部ちよつと……笑うな……

そこに後輩たちが来る。

後輩たち 失礼します！

蓮見 横山先輩……

横山 おう。

後輩たち、一気に笑い転げる。

横山、そこを飛び出して行く。

学校の廊下。

宮城がハツパに叱られている。

ハツパ 宮城君、もし自分があんな事を人にやられたら、どう思う？ 嬉しい？

宮城 いいえ。

ハツパ 嫌でしょ？

宮城 はい。

ハツパ じゃあ、なぜあんなことをするの？ 自分がやられて嫌なことを、人にしちやダメじゃない。

宮城 はい。

ハツパ 特に、こういうことは傷付くんだよ。真剣な気持ちを笑われると。

ハツパ もう二度と告白なんかしないと、思うじゃん。でも、たとえばそんな理由で、告白が出来ないとか、別れちゃうとか、悲しいと思わない？

宮城 はい。

ハツパ 人が人を好きになることを、笑っちゃダメだめよ、絶対に。大切なことなんだから。

宮城 はい。

ハツパ ちゃんと謝んなよ。二人に喧嘩されたら、困るよ、私。せっかく上手くいきそうなのに。

そこに横山が来る。

ハツパ 健一さん、聞いて。すっごく怒ってると思うけど、私も今、宮城君に

ハツパ いったから。宮城君もちゃんと反省して、謝るっていつてるから。

ハツパ だから、今日は許してあげて。ね、宮城君？ 謝って。

宮城 ごめんなさい。

横山 オメーはよオ。

ハツパ お願い、許して。(と横山を拝む)

横山 まあ、いいけどさ……

ハツパ ありがとう！ ほら、宮城君！

宮城 横山、俺は本当に悪いことをしたと思ってる。ごめん。

宮城 これからも友達でいてください。(と笑う)

横山、キレて宮城を追い掛け回す。逃げ回る宮城。

青春の音楽が鳴り響いてー

幕

『サタデーナイト・フィーバー』のテーマ。  
ジョーとリンダ、ナンシー、アーヤが派手な衣装で、ディスコダンスを披露している。  
ひとしきり踊ってキメ。

リンダ ヒュー！ ちょっとブレイクしよ！

そこは休日の教室。  
ジャージ姿のミナトヤと、いつも変わらぬ制服姿の横山、宮城、関水、シユウケイ、ハツバ、ナオさんが見学をしている。  
ジョーとナンシー、アーヤは自分の世界で踊り続けている。

リンダ 踊り出したなら、止まないんだから。もう。  
関水 お疲れ様です。どうぞ。

と関水が用意したジュースを進呈する。

リンダ ワオ、チェリオ！  
ナンシー・アーヤ チェリオ！  
関水 ジャストっていう、校門の前の店で売ってるんです。  
女たち コーモンの前！  
ミナトヤ どうだ、スゴイベ？  
横山 すごい。でも凄過ぎる。  
ミナトヤ とても俺らとタメには見えねえべ？  
関口 本当に17歳なの！？  
女たち そうよー。  
ナオさん 無理だよ、こんな踊り。  
宮城 こんなもん、うちの学校にどうやって広めるんだよ。ザビエルだって布教できねえよ。  
リンダ 大丈夫よ、踊っちゃえば。やってごらん。へい。

と宮城の手を取り、踊らせようとするが、

宮城 あ、いいです……僕はいいです。

と逃げる。

ナンシー じゃ、チェリオ君。

と関水の手を取るが、

関水 わア！

と逃げる。

気がつくと、岡本が覗いている。

岡本は、オシヤレな格好をしている。

ミナトヤ よオ、岡本。

岡本 よ。

横山 何しに来たんだよ？

岡本 横山さんが頑張ってるなと思ってさ。

横山 何だよ？

アーヤ カッコイイ。誰？

ミナトヤ カッコイイべ。演劇部の大スターだよ。

ナンシー・アーヤ ハロー！

横山 ミナトヤが呼んだの？

岡本 違うよ。皆さんもさ、大変だなと……

アーヤが岡本に近づき。

アーヤ そう、大変。でもみんなのために頑張るからさ。

ナンシー 大スターさんも、見えて。

岡本 はい……

ハツパ あの、もっと簡単なありませんか？ 誰でも出来そうなの。

リンダ 簡単なのは……

リンダ、得意げにダンスを披露するが、

ジョー (ベタベタの茨城訛で) デエスコはじめてなら、ジンギスカンから入ったらいいんでねっけ?

一同 ……

関水 それは13世紀、中央アジアにフビライ帝国を打ち建てた皇帝でしょうか。何に言ってるんか、分かんねえな。ジンギなら、牛でも出来んべさ。

ジョー オオ、そうか……

ミナトヤ ジンギスカン!

女たち

聞こえて来る往年のディスコの名曲『ジンギスカン』。

ジョー、リンダ、ナンシー、アーヤとミナトヤは同じ振りで踊り

始める。

リンダ カモン、エブリボーデー!

ナンシー 踊れよ、あつぎい!

ミナトヤ 簡単だから。誰でも出来るって! 大丈夫だから、ハツパさんも、健一も!

ハツパ やってみようよ。ね! やろ!

とナオさんを誘ってハツパも踊り始める。

仕方なく、横山、宮城、ナオさんも踊り始める。

宮城 関水、テメエもやれよ!

関水 嫌だよ、恥ずかしいよ……

アーヤ ヘイ、大スター!

岡本 はい。

岡本は進み出て、見様見真似で踊り始める。

すると関水より先に、シュウケイがやけ気味に踊りだす。だがその時、テープが止まってしまふ。シュウケイは肩を落とし席に戻ろうとするが、リンダがシュウケイを誘って踊り方を教える。

一同 ……

再び、音楽が鳴り、シュウケイは一心に踊る。

ミナトヤ (横山たちに)何してんだ、踊るべ、みんなも!

横山たちも混ざり、踊り始める。  
全員で踊ると結構、盛り上がる。

横山と宮城、ハツパ、ナオさん、関水、シユウケイは踊りつつ話し合う。

ハツパ　いけるんじゃない？『ジンギスカン』！

横山　いけるね。行こう、これで。

ナオさん　でも、みんな踊るかな？

横山　キャンペーンだよ、キャンペーン。この踊りを校内に普及させるんだ。

ナオさん　どうやって？

横山　昼休みとか、放課後に音楽かけて、みんなで踊るようにする。

ナオさん　でも、ほっといたって踊らないよ。外人じゃないんだから。相手は厚高生だよ。

ハツパ　大丈夫だよ、今だって踊ってんじゃない。

ナオさん　ここに居る人たち、基準にしていると思う？　普通じゃないよ、アタシたち。

普通は模試受けに行くんだよ、日曜は。

一同、踊りをやめる。

音楽もいつの間にか止まっている。

関水

踊りつて、一度踊り出すと楽しいんだけどね。そこまでに勇気がいんだよね。大嫌いだっただもん、小さい頃、盆踊りとか。死ぬほど恥ずかしいんだ。輪の中に入るの。

ハツパ　でも、これは盛り上がるじゃん。

ナオさん　みんなが踊ってくればね。

ハツパ　ダメかな？

横山　踊り方教えなきゃダメだろうな。

その時ジョーが『メリージェーン』を流す。

唐突に始まるチークタイム。ミナトヤが岡本の背中を押し、アーヤと岡本のチークタイムが始まる。

ハツパと宮城も目が合うが、なんだか気まずい様子。

宮城

踊ってみせんだよ、毎日。中庭とか、玄関とか、目立つところで。それで流行らせんだ。それしかねえだろ。

関水

誰が踊るの？

宮城

俺とお前だ。

関水 え！

宮城 ピエロだ、ピエロ。俺らが笑われりゃ、いんだよ、毎日。

関水 嫌だよ、そんなの。

ナオさん 二人だけじゃ可哀相じゃない？

ハツパ 私もやるよ。

宮城 いや、結構。女子はいい。

シュウケイ 俺、やるよ。俺も入れろよ。

一同 ……

シュウケイ 二人より、三人の方がキマるじゃん。宮城を真ん中にして。レッツゴー三匹みてえに。俺じゃダメか？ ごめん、俺、平凡だけど。

横山 長作だよ。レッツゴー三匹の長作。いんじゃん、右端の一番、普通の感じの人。でも、その方がバランスいいかもよ。

宮城 よし、決まった！ シュウケイはギターを弾いて、関水、お前は鈴持って踊れ！

関水 何だよ、それ？

シュウケイ ねえ、ごめん、俺、ギター弾けねえ。

宮城 いいよ、持つてるだけで。お前がバンドで、お前がチアガールだ！

関水 意味わかんねえよ！

宮城 意味は無しっ！ 神の啓示だ、神の啓示！ やらなきゃ死ぬんだよ！ よし。そんじゃ生徒会室行って打ち合わせだ。関水！

関水 何？

宮城 チェリオ買って来い。

関水 なんだよお！

宮城は一番先に出て行き、シュウケイ、関水も後に続く。

横山 今日の宮城、妙にパワフルだな。

ハツパ うん……

横山 ミナトヤ、俺らも、

ミナトヤ おう、こっちはOKだから。

横山、ハツパも生徒会室へ行く。

リンダ お役に立ったかしら。

ミナトヤ バッチしだべ。サンキュー。

いつの間にか見つめ合っている、アーヤが岡本にキスを求める。

岡本、覚悟を決めてキスをしようとしたその時、

一同  
岡本

わあ！

鼻血だー！

岡本は花血を出している。

暗転。

その夕方。

廊下。

横山とハツパが来る。

ハツパ 絶対、いっちゃダメだよ。

横山 なに？

ハツパ 昨日、宮城君から電話があったの。うちに。

横山 うん。

ハツパ 約束だよ。健一さんだからね。私が出たのね。そしたら、「君が好きです」  
って。

横山 え？

ハツパ だから、そういうの。

横山 そんな？

ハツパ それだけいって切るの

横山 そんなだけで？

ハツパ そう。他に何にもいわないで。どう思う？ あんなの変態電話じゃん。何、考え  
てんだよ、もう。

横山、崩れ落ちて笑い出す。

ハツパ ダメだよ、いっちゃ！

横山 いわないよ。いわないけど……（と笑う）

ハツパ 前からさあ、変な気配はあったんだよ。

横山 あ！ そういえば、今日変だったよ。

ハツパ やりにくいよ。ねえ。

横山 （笑う）

ハツパ 笑いごとじゃないのよ。

横山 変な奴だね……でも、そっかあ、あいつも結構、普通なんだな。

ハツパ 普通じゃないよ、切らないよ、普通は。卑怯だよ。

横山 で、どうすんの？

ハツパ どうもしない。正式に言われたら、ちゃんと返事するけど、あんなの認めない。

横山 （笑って）カエエソー。

そこにシュウケイが来る。

横山 お疲れ。

シュウケイ お疲れ……

ハツパ 大変なことになっちゃったね、シュウケイ君、大丈夫？

シュウケイ うん。何とか……

横山 ギター明日持つてくるよ。

シュウケイ サンキュー。もう帰る？ なあ、ちょっと話さねえ？

横山 何かあんの？

シュウケイ 別にねえけど。

横山 いいけど、どこで？

シュウケイ どこでもいいけど、何か、みんなと話してえなと思ってさ。

横山 オオ。

シュウケイ だって、あんま、話したことねえじゃん、俺たち。

横山 そうか？

シュウケイ くだらねえことは話してるけどさ。

横山 真面目なこと話すの？

シュウケイ 別にそうじゃねえけど……

横山 何だよ？

シュウケイ 何でもいいんだけどさ、話してえじゃん。たまには。

横山 まあな……

シュウケイ いいや……また、そのうちな。

横山 そうか？

シュウケイ おう。じゃあな。

横山 じゃ。

とシュウケイは走り去って行く。

横山 あいつも、不思議な奴だよな。

ハツパ ていうかさア、みんな、人と付き合るのが下手過ぎるよ。言いたいことがあるな

ら、はつきりいえないじゃんか。

横山 そら、ハツパさん、外国育ちだから。

ハツパ 違うよ。子供なんだよ、みんな。自分は何もしないでおいて、そのクセ、人には、

わかってもらいたいのよ。大人じゃないよ、そんなの。

横山 ……

ハツパ 帰ろうぜ。

横山 うん。

二人は帰る。

放課後の中庭。

サルバドール・ダリのような恰好をした宮城と、白衣にギターを抱えたシュウケイ、それにチアガール姿で鈴を持った関水が現れる。

『ジングスカン舞踊団』である。

宮城

諸君。我々は諸君に、愛と真実のダンスを授けるためにやってきた、ジングスカン舞踊団だ。

関水

コマーシャルタイム！

シュウケイ出て、白衣を脱いで貧相な肉体を晒す。

宮城

世間の人たちは、私のことを貧相な坊やと馬鹿にした。私は思い切って『ジングスカン』を試してみることにした。

シュウケイ踊る。

宮城

効果は上がり、私はメキメキ遅くなっていった。

シュウケイ、胸に胸毛など貼りつける。

宮城

今では、誰もが私のことを立派な男性と認めてくれている！

関水

うっふーん！

関水、シュウケイに抱き着いてポーズ。

宮城

さあ、みんなで踊ろう。

三人

『ジングスカン』！

三人に付き添うナオさんがカセットのボタンを押す。

三人は踊り始める。ナオさんはチラシを配る。

ナオさん

今年の後夜祭はみんなでジングスカンを踊ります！ 踊り方はコレです！

覚えて下さい！

ナオさん、周りの学生たちに踊り方の描かれたチラシを渡す。  
踊るように誘うが、みんな笑っているだけで踊らない。  
ハツパと横山も来る。

ナオさん　ダメだよ。誰も踊ってくれないよ。恥ずかしいよ、私。

ハツパもチラシを渡しながら学生たちを踊りに誘う。  
だが、学生たちは笑いながら通り過ぎてゆくばかりだ。  
分厚いメガネに大きなカバンを持ったガリ勉君（男）が来る。ナオさん  
は彼にチラシを配る。  
ガリ勉君は恐れつつも、興味を持っているようだ。

ガリ勉君

……

一方、ハツパの側にも分厚いメガネに大きなバッグのガリ勉さん（女）がいる。彼女も同じようにチラシをじっと読み、宮城たちの踊りと見比べている。

ナオさん　考える前に踊った方が早いから。ね？ さあ、踊ろう！  
ハツパ　とにかく、身体を動かして。さあ！

ガリ勉男女は逃げ去ってしまう。  
シュウケイと関水は挫けて踊りをやめ、

関水　ダメだよ。みんな、笑うばかりで、踊らないよ！

シュウケイ　ただ、見てんじゃねえよ……

関水　恥ずかしいよ、俺、もう……ねえ、ダメだよ、これじゃ。

宮城　うるせー！ いいから踊んだよ。俺らは死ぬまで踊るんだよ！

関水　こんなことで死にたくないよオ……

宮城　死ぬんだよ、俺らはこれで死ぬんだよ！

そして宮城は一人、パワフルに踊り狂う。  
学生が通り、宮城が踊れと迫るが、学生は笑って去っていく。  
宮城はそれでも踊れ、と縋って追いかけていく。  
慌てて追いかける、一同。

張ケ谷が通りかかり、横山と目が合う。

張ケ谷 狂気の沙汰だな。

横山 そうだよ。狂うんだよ、みんなで。今年はこれだぞ。後夜祭。お前も踊れよ。

張ケ谷 俺はいねえよ。

横山 来いよ、後夜祭！

張ケ谷 休むんだ。文化祭。

横山 何で？

張ケ谷 別にねえけど……家にいる

横山 勉強か？いいじゃねえかよ、二日ぐらい。祭りだぞ。

張ケ谷 時間の問題じゃねんだ。二日ぐらいな。

横山 じゃあ、なんだよ。

張ケ谷 気分だよ。気分。ヤバイよ。今、そんな空気吸っちゃったら……受験、終わるまではな。この1年は俺のもんじゃねえんだ。懲役だ、懲役。だからよオ、あんまり、誘惑すんな。

とチラシを返す。

張ケ谷 でも、そういう奴も大勢いんだぜ。覚えとけよな。

ガリ勉男女がチラシを持って戻ってくる。

張ケ谷は去る。

宮城に追いかけてられている学生たちの悲鳴と笑い声。

学生たちと宮城たち、戻ってくる。

宮城 踊れー！ テメエら、いい加減に……踊ってください、お願いします。

一同、笑う。笑われながら、その中で一人必死に踊り続ける宮城。

やがて、ハツパも加わり踊り続ける。

しかし、学生は踊らず笑いながら、囃し立てる。

ハツパ 一緒に踊ろうよ。ねえ！

ハツパたちは踊り続けるが、笑ってみているだけの学生。

ナオさんも学生たちを誘い続ける。

やがて、ハツパは音楽を止めて。

ハッパ どうして踊らないの？ みんなの文化祭でしょ？

ナオさん 盛り上げようよ！

ハッパ 見てるだけじゃダメだってば！

そこにミナトヤがやって来る。

ミナトヤ やあやあ、メンゴ、メンゴ！ バンド・コンペの審査したら遅れたべ。さあ、

踊るべ。(踊らぬ学生たちに) ねえねえ、何で踊らねえの？ なあ？

と辺りの学生の手をとって踊らせようとするが、学生は嫌がって逃げる。

ミナトヤ OK、OK、そんなじゃ、見てて。まず覚えよ。いい？ こうやって……

しかし、みんな逃げていく。

一同 (疲れ果てて) ……

そこにドヤドヤと数名の女子。

蓮見 失礼します！

後輩たち 失礼します！

蓮見、野崎、黒江ら演劇部の後輩たちだ。

蓮見 横山先輩！

後輩たち 先輩！

後輩たちは横山の元にすがるようにやって来る。

蓮見 文化祭の稽古をしていたら、岡本先輩が来て邪魔をするんです。

後輩たち 邪魔をするんです！

蓮見 稽古をやめて、変な踊りを踊っているんです。

後輩たち 踊っているんです！

岡本が、後輩二人の首根っこを掴みながら現れる。

岡本 おうおうおうおうおうおうおうおう！

後輩たち あ、来た！

岡本 馬鹿！ 変な踊りじゃねえ！ 『ジンギスカン』でい！おう teme たら、誰のお陰でゼンコク行けると思ってんだ？ 横山さんのお陰だろ！ その横山さんが、こうして困ってらっしゃんだよ。teme 達がお助けしねえで、誰が助けるってんでい！

ねえ、横山さん？

横山 岡本！

岡本 横山さん、こいつら使って、盛り上げやしよう。

横山 それ、助かるよ。

岡本 (Vサイン)

蓮見 でも、先輩、私たちには文化祭の稽古があるんです！

後輩たち 稽古があるんです。

岡本 うるせえうるせえ黙って踊れ！ 殺すぞ！

後輩たち センパイ！

と後輩たち、横山に助けを求めるが、

横山 岡本先輩のいう通りだ。君たちも踊りさない。

後輩たち え？

宮城 おどろれ〜！

後輩たち わあ〜。

岡本 宮城さんもこう仰ってるんだ。さっさと、踊らねえか。

蓮見 そんなこといってもフリがわかりません！

後輩たち わかりません！

岡本 そんなもん、いらん！ 気合で踊れ！ 気合で！

ミナトヤ、前に進み出て、

ミナトヤ こうだよ、こう！

と手本を見せる。

岡本 何をボーゼンと見てるんだ。お前らも踊れ！

後輩たち はい！ よろしくお願ひします！

真似して踊り出す後輩たち。

岡本、横山も踊り始め、辺りにはにわかに活気づく。

ガリ勉君とガリ勉さんが様子を見に再び戻ってくる。

それを見たハツパとナオさんは、二人の元へゆく。

ナオさん

さあ、踊ろう。勇気を出して。

ハツパ

一緒に思い出を作ろ。

ためらいつつも、逃げないガリ勉男女。

宮城達

ジン、ジン、ジンギスカン。

一同、手を叩きつつ叫び始める。

一同

ジンギスカン！ ジンギスカン！ ジンギスカン！

一同、二人の前でリズムを取り、踊りの手本をゆっくりと見せてやる。

ガリ勉男女は初めて歩く子供のようにたどたどしく踊り始める。

ハツパとナオさんは二人の腕から、大きなカバンや参考書を受け取って見守る。

一同、ガリ勉男女を励ますように声を合わせて踊りに誘う。

その声に包まれ、ガリ勉男女は踊りに没頭する。

そしてついに、ガリ勉男女は華麗に踊った。

一同

おおーっ！

場面は何故かスローモーションになり、美しいセピア色に染まる。宮城とシュウケイも喜び、手を取り合っている。関水は泣いている。

やがて、その感動のままゆっくりと暗転してゆく。

横山だけが明りの中に残り、語る。

横山

そして戸陵祭の日が来た。それは戸陵祭史上、最も盛り上がった戸陵祭だったと僕らは勝手に思っている。もちろんシラケてた奴もいた。でも、そういう奴らはハナから学校に来なかったから、少なくとも邪魔にはならなかった。そんなことより問題は、後夜祭でみんなが踊ってくれるかどうかだった。来ない奴

はい。でも、来た奴がシラケたら終わりだ。努力の甲斐あって、手応えは感じていたが、後夜祭が始まるまでは不安だった。しかし、その不安は杞憂ってやつだった！

後夜祭。

体育館の壇上のミナトヤ、一人スポットライトの中で語る。  
 そこから最も離れた体育館の後ろに一列に並んで成り行きを見  
 守るジンギスカン舞踊団とナオさん、ハッパ、それに岡本と横山。

ミナトヤ

僕らの祭りは間もなく終わります。でも、この二日間の思い出はきつとみんなの心に一生残ると思います。今年は最高の戸陵祭でした。みんな、どうもありがとう！

大歓声が響く。

ミナトヤ

はつきしいって、みんな、つまんねえ学校だと思ってたと思うんだよね。受験のための学校だし。それぞれ、ずっと遠くに目標があつて、途中駅みたいなもんだかね、ここは。でも、途中駅かもしれないけどよ、俺らはここで出会って、こうやって知り合えたじゃん。よかったよ。途中で会ったヤツの方がさ、心に残ることもあんよ、そう思わねえ？ なあ？

大歓声。

ミナトヤ

俺、バカですから上手くいえませんが……僕らは、ただ中学の成績で振り分けられて、この学校に寄せ集められただけです。だから、みんなが分かり合って一つになるなんて不可能なことは、よくわかっています。現に今日、ここに来てくれなかった人も大勢います。でも、俺たちこうやって力を合わせて文化祭やってよお。何ていうか、わかんねえけど……俺たちは、ただ集められたんじゃないやなくてさ、自分の気持ちで集まる仲間になつたんだよ、そうだろう？ 俺は今日ここでみんなと出会えて、この戸陵祭をやれて、本当によかったと思ってます。本当に、どうもみんな有難う！

ミナトヤは泣き崩れ、大歓声がそれに応える。

そして『ジンギスカン』が聞こえてくる。

体育館の後ろに一列に並ぶジンギスカン舞踊団とナオさん、ハッパ、それに岡本と横山はしばし声もなく体育館のフロアを見詰めている。

ナオさん　ハツパ……ハツパ……

ハツパ　うん、うん。

ナオさん　見て。ねえ、ハツパ！

ハツパ　うん！

シュウケイ　踊ってるよ。ねえ、みんな踊ってるよオ！

岡本　踊ってるべ！　踊ってるべ！　横山さん！

横山　ああ……

シュウケイ　宮城、見ろよ！　ジンギスカンだよ！　宮城！

宮城　オオ。オオ……

シュウケイ　関水！　関水！

関水　シュウケイ！　シュウケイ！

二人は抱き合って泣く。

そこにミナトヤが駆けつけてきて

ミナトヤ　何やってんだよ、ジンギスカン舞踊団！　来いよ！　真ん中で踊れよ！

ホラ、早く！

岡本　おい宮城、行こうぜ！

宮城　オオ！

岡本　何やってんだよ、行くぞ、関水！

関水　うん！

ジンギスカン舞踊団と岡本、ナオさんはミナトヤとともに踊り  
の中に入って行く。

横山とハツパが残る。

そこに堀江美也子がやって来て、

堀江　凄いよ。

横山　うん……

堀江　大成功おめでとう。

横山　ありがとう。

堀江は去る。

ハツパ　ねえ、健一さんさ……

横山　うん。

ハツパ　アタシ、泣いちまいそうだよ……

横山　おう。

ハツパ　やったね！

横山　おう！

横山はハツパの手を取り。

横山　俺たちも行こうよ！　ねえ、踊ろうよ！

ハツパ　うん！

ジンギスカンの踊りの輪が膨らんでくる。

そして二人もそのジンギスカンの熱狂の中に混じってゆく。

校門前の公衆電話。

横山が電話をかけている。

側にハツパ。

横山

もしもし、堀江さん？ 横山です……うん。もう帰ってるだろうと思って。俺はまだ。片付け。でももう終わる……あの……今日は有難う。うん……それと、今までごめんね。どうしていいか、分かんなかったんだよね。それだけです……でも、2学期からは普通にするようにするから……とにかく謝ろうと思って……うん、頑張る。有難う。じゃ……

と切る。

ハツパ

何だって？

横山

別に。ただ謝っただけ。

ハツパ

復活は？

横山

ないよ。いんだ、もうこれは。でも、スッキリした。有難う……

ハツパ

そっか。

横山

大人になるのは難しいべ。滝川先輩は？ 来なかったね？

ハツパ

うん。無理かもって行ってたし……

横山

見て貰いたかったよな、後夜祭。

ハツパ

実はもう終わったんだ、私たち。

横山

え？

ハツパ

やっぱ、あつちは大学だから。いろいろ違ってくんよ。

横山

そう……

ハツパ

聞いた？ 今日、梅雨明けだって。もう夏だね。パッと行きたいね、海でもさ。

横山

……

ハツパ

今年はそんな訳いかねっか。さあ、受験だナ。

横山

……

ハツパ

なによ。もういいの。子供だったんだよ、アタシも。

横山

しょうがないよ、子供でも。

ハツパ

そっだよ、ね？

横山

うん。

ハツパ

さっき、私の手いきなり握ったでしょ。ああいうの、ドキッとすんだよ、女の子って……

横山 ゴメン……

間。

横山 みんな、待ってるナ。

ハツパ 行く？

横山 うん……

そして二人は去る。

中庭。

それぞれ着替え、カバンを置き、帰り支度が出来ている。しかし、制服の上にハッピを羽織っていたり、妙な鉢巻きをしていたり、いかにも祭りの後といった雰囲気である。

関水とシュウケイがジンギンカンをデタラメに踊ってふざけ合  
い、ナオさんと宮城が笑い転げている。

そこに横山とハツパが来る。二人もカバンを持っている。

ナオさん お疲れ！

関水・シュウケイ お疲れ！

ハツパ ゴメン。ついでに生徒会室閉めて来たから。こっちも終わった？

ナオさん うん。全部、片付いたよ。

関水 ジャーン！

と、関水はケース(フードテナー)に入った、山盛りのパンやジュースを見せる。

横山 何だよ、それ？

シュウケイ 貢ぎ物だよ。販売部から。俺らの功績を称えてだってよ。

ナオさん 売れ残りだけどね。

横山 スゲー。

シュウケイ 乾杯すんべよお！

それぞれジュースを持って立つ。

シュウケイ それでは、委員長。音頭をどうぞ。

関水 ええ、僭越ながら。

シュウケイ (すぐ突っ込んで) オメーじゃネー！ ハツパだ、ハツパ。

ハツパ あのさ……今回のことはホント、みんなのお陰で、私、感謝してます。どうも有難う。でも今回は特に、今回は宮城君が頑張って、私たちを引っ張ってくれて、助かりました。だから、乾杯は是非、宮城君にやってもらいたいと思います。どう？

シュウケイ ミヤギ！

関水 宮城っ！

横山とナオさんも大拍手を送る。

ハツパ 宮城君、よろしく。

宮城 いいよ、俺は。

横山 やれよ！

シュウケイ やれっ！ やっちまえッ！ 狂えーっ！

一同、爆笑。

宮城 そんなじゃ。乾杯。

ナオさん それだけ？

宮城 ……成功して、よかったです。乾杯。

一同 乾杯！

チェリオを飲んで、一息つき。

横山 ケッコーかかったよね、片付け。

ナオさん うん。もう9時だよ…私、初めてだよ、こんな時間まで学校にいたの。

関水 でも、なんか、旅行したみたいだ、みんなで。

ナオさん なにそれ？

関水 だからなんか、みんなで船に乗ってさ。なあ、シュウケイ？

シュウケイ え？ おお。

ナオさん わかんないよ、何よ、それ？

シュウケイ なあ、今から、河原行かねえ？

ナオさん 河原？

シュウケイ そう、相模川の河原行って、焚き火しねえ？ 酒とかも買って、打ち上げやるべよ。

ナオさん だって制服だよ。

シュウケイ 構わねえよ。

関水 ダメだよ、内申書に響くだろ。

シュウケイ じゃ酒はいいよ。でも、とにかく行こうぜ、河原。

ハツパ そんなでどうすんの？

シュウケイ わかんねえけどさ。いろいろあんじゃん。

関水 もう9時だよ。

シュウケイ 特別な日だぞ。

ハッパ パツといきたいよね。

横山 朝までやるか！ 焚き火を囲んでな。何か、青春を感じだな。

シュウケイ そうだよ、徹夜だ、徹夜。そんなことしたことねえだろ？ やってみよ

うぜ、一度ぐらい！

ナオさん でも、徹夜はちょっと……

ハッパ 徹夜は、うちもマズイなア……

関水 絶対、無理だよ。ヤバイよ。それでなくてもこんとこずっと帰りが遅

くってお袋に睨まれてるのに。

シュウケイ 無視だよ、無視！ いいじゃねえか 一日ぐらい。今日で最後なんだ

からよ。なア、宮城？

宮城 俺は帰るワ。河原なんか行って、何すんだよ？

シュウケイ だって、もつと一緒にいてえじゃん。話そうぜ、いろいろよオ。

あんじゃん、いろいろ。話すんだよ、朝までよオ。

宮城 終わりだよ。遊びは終わり。

シュウケイ またそんな、捻くれたこという……

宮城 さあ、そろそろ勉強しねえとな。遊びは大学行ってからだ。現実、現実。

シュウケイ 後夜祭の盛り上がりだって現実だろ。嘘かよ、あれは？

宮城 オセンチだな。なに青臭エこといつてんだ。

シュウケイ 宮城！

関水 でも、ホントまずいよ。みんな、予備校とか行ってんでしょ？授業の後に。

ナオさん 常識じゃない？

関水 マズイよ。

横山 オウ、成績の話なら、聞いて。俺、こないだの旺文社模試、ついに校内485番

だよ。英語なんか質問の意味が読めねえの。偏差値なんか23よ。

ハッパ 偏差値って25が最低じゃないの？

横山 極端に低い場合、希にあんだって。俺、劣等生の気持ちじゃ初めてわか

ったね。ホント最近の授業なんか、何やってんのかチンプンカンプン

だもん。絶対、浪人だよ。

関水 俺、浪人はダメ。殺されるよ、そんなの。

シュウケイ やめろよ、そんな話。

関水 俺んちの親父、大学出てねんだよ。それで会社で苦労したんだ。

だから、お袋が命賭けてんだ。

シュウケイ おい、横山、お前、受験なんかすんのかよ？

横山 やるよ。当然だろ。

シュウケイ やめろよ。

横山 え？

シュウケイ やめろよ、お前は受験なんか。

横山 なんて？

シュウケイ 演劇があんじゃん。やれよ、演劇。いいじゃねえか、学歴なんかなくたってさ。才能あんだから、そのままやれよ。

横山 そんなに甘いもんじゃねえよ。

シュウケイ でも、やめろよ。ダメだよ！お前は受験なんかすんなよ、ゼツタイ！

ナオさん そんなの別に、健一さんの勝手じゃん。シュウケイ君だって受験すんでしょ？

シュウケイ 俺はするよ。

ナオさん ほら。

シュウケイ だって俺には他にねえもん、特別なもんが。でも、横山みたいに自分の道を持つてる奴が、やんなくていいじゃねえかよ、下らねえ受験なんか。何のため行くんだよ、大学なんか！

宮城 ナンかなア……ウンコだな、もう……

シュウケイ ああ、俺はウンコだよ！

宮城 ウンコだ、ウンコ。みんな、ウンコだよ。

シヨウケイ 何なんだよ、オメーはよお！

ハツパ もう、やめようよ。せっかく、楽しい日なんだからさ。

一同、しばし沈黙。

ナオさん 何で、受験なんてあんだらうね。

ハツパ ホントにね……

ナオさん でも、そういう疑問を持ったら負けなんだよね。

ハツパ そういうよね。

横山 俺、考えたんだよね、ほら、劇も受験がテーマじゃん。それで、まあ、考えたんだけどさ……結局、通過儀礼だと思うんだよね。

ハツパ 通過儀礼？

横山 そう。通過すべき儀礼・儀式ね。たとえば、ニュージーランドの原住民にね、高い木のテツペンから、足に一本だけ綱を付けて飛び下りる儀式つてのがあんだよ。バンジーっていうの。その村では、若者はある年になると全員、それをやんなきゃいけないんだよ。当然、危なくて、死んじゃう奴もいるの。でも、それを無事にくぐり抜けると、若者は一人前として認められて大人の仲間に入れてもらえるようになるんだ。つまり、大人になるための儀式なんだよ。そういうのを通過儀礼っていうんだよ。いろいろあんだよ。それぞれの社会にね。イレズミを入れたり、長い旅に出たりさ。たいてい苛酷なことさ。でも、共

通しているのは、その行為自体はどれも馬鹿馬鹿しいんだな。だって、飛び下りだよ。意味なんか考えたら、やってらんないじゃん。

ナオさん 受験もそういうものだってこと？

横山 馬鹿馬鹿しいけど、社会に入るための儀式だよ。

シュウケイ 違うよ、そんなの。絶対、違うよ。そんなもんなら、俺は飛び下りる方がよっぽどいいよ。そっちの村に入りてえよ。だってよオ、その村はつまり、飛び下りて生き残った奴らが作る村だろ。受験に生き残った奴らが作る社会なんかより、ずっとマシじゃん。俺はそういう奴らに認められてえよ。凄エじゃん。木のテッペンから飛び下りた奴らの村なんて。いい村だぜ、きっと。祭りなんかやったら、十日ぐらいつと盛り上がってンだぜ、きっと。

そしてシュウケイはギターを抱えて、歌い始める。

『はじめ人間ギャートルズ』のエンディングテーマ

『やつらの足音のバラード』だ。

ギターを弾けなかったはずのシュウケイが弾き語りをする。

ナオさん

弾けないんじゃないの？

関水

練習したんだよ、あれから。

シュウケイが歌い終わると、またもしばしの沈黙。

やがて、

ハツパ

ねえ、卒業の時に、もう一度集まろう。しばらくお預けにしてさ。卒業の時に。その時はちゃんとお酒も用意して、相模川に行こう。そこで焚き火して朝まで騒ごう。いろんなこと話そうよ。最後にやろうよ。卒業の時に。ねえ、約束。約束しよう。

そのまま夜が若者たちを包み込んでゆく。

舞台上に岡本、一人現れ語る。

岡本

良くいえば慎重派、悪くいえば根性なしの横山さんは口ではさまざま謙遜をしていたが、俺は知っている。

横山さんも、8月の全国大会で優勝し、一気に有名になりや、もう受験なんかしなくて済むんじゃないかかと思っていたんだ。それが証拠に、俺たちは、それから大会まで、全く勉強なんかしないで稽古に明け暮れ、作品を練り上げていた。

そして、運命の全国大会！

昭和55年度関東地区代表として、大分芸術文化会館に乗り込んだ俺たちは、予定通り、高校演劇界に一大センセーションを巻き起こした！横山さんは天才作家現れるといわれ、そしてこの俺は、スター誕生と絶賛された！

音楽が鳴り響き、演劇部の後輩たち現れ、岡本の後ろで踊る。

岡本

だが、しかし、結果は2等の優秀賞！あろうことか、1時間の制限時間を4分オーバー！練り直しに熱を入れ過ぎ、芝居が長くなっていたのだ。けれど内容では一位だったと、観た人誰もがいつていた。横山さんの戯曲はすぐ出版が決まり、俺は全国の高校演劇部員からサインを求められた。俺たちの運命の扉は開かれたのだ！

もし、演劇界にドラフト制度があれば、俺たちは間違いなく、有名劇団から1位指名を受け、1億の契約金を積まれたことだろう。俺は、つかこうへい事務所に行きたいのに、劇団四季に指名され、悩んじゃったりしただろう。

とにかくもう大学なんかクソ食らえだ！世界は俺たちを待ち望んでいる。俺たちが一刻も早く、プロとしてデビューすることを！

岡本の背後では、演劇部顧問の中村伸行先生の指示のもと、机を並べてクロスを敷き、花瓶などを飾って、記者会見の準備が整えられて行く。

岡本

夏休みが終わり、学校に行くと、さっそく新聞社から取材の申し込みがあった。東京新聞だった。それがピンと来なかったけど、東京だ。

顧問の中村さんも朝からすっかり舞い上がっている。それにしても俺、新聞なんかに出ちまって、明日からはもうマジでサングラスかけねえと、ヤバイかもしれないねえナ。校門に追っ掛けがタムロったりして、学校にも迷惑かけちまうナ。まあ、卒業したら、冷水器でも寄付するべ。冷たい水がピューって出るやつよ。アレ、いっつも壊れてっからよ。

整えられた会見席。『作者・横山健一3年』『主演・岡本宣也3年』『顧問・中村伸行』の紙が下がり、横山と中村先生はすでに緊張の面持ちで座っている。

最後に岡本がスターらしく鷹揚に着席する  
すると記者（三好さん）がやってくる。

記者　ごめん下さい。演劇部の方は……

記者といっても、普通のおばさんのような人だ。

中村先生　私、顧問の中村です。

記者　どうも、シヨッパの三好です。

中村先生　は？ シヨッパ？

記者　（見本紙を渡しつつ）こういうものにして。町田、相模原、厚木一円に無料配布している、お買い物情報紙です。

中村先生　これは知ってますけど……東京新聞の方では？

記者　ええ、東京新聞の販売店扱いでして。私も出向してるものですから。今日はシヨッパの方で。

中村先生　シヨッパ……

記者　あらま、ずいぶん綺麗に……ホントに申し訳ないような、小さな、町の話題の欄でして、記事の方はもう資料から起こさせて戴きましたから。今日はお写真だけで、もう、はい……

中村先生　インタビューは？

記者　結構です。お写真だけ、はい。

横山・岡本　……

中村先生　カメラマンの方は？

記者　私が撮ります。

と取り出し、構えるのは小さなポケットカメラ。

記者

はい、チーズ。もう一枚。はい、どうも、お邪魔致しました。

そして記者は去る。

中村先生もそれを見送って行く。

岡本

何じゃい、これは。

横山

……………

岡本

どういうことだ、野球はそんなに偉いか。演劇はダメか？ 池田高校の水野投手は報知新聞の一面だぞ。岡本宣也はショッパーの町の話題か？ それも一言のインタビュもなしで、ポケットカメラか？ どーすんだよ、俺たち？ 必死にやっただけがこれかよ！

横山もショックを受け、机に突っ伏す。

岡本

ダメだ！ やっぱ大学行くべ。

横山

(机に突っ伏したまま、机をたたき続ける)

岡本

(拳を押さえて。) OK、OK、まあよオ、つか事務所の連中も一応、大学は行ってみたいだしな……でも、みんな、どこだ？

張ケ谷が現れる。

張ケ谷はおもむろにタレント名鑑を読み上げる。

張ケ谷

79年、タレント名鑑によりまずと、平田満、早稲田大学政経学部。

三浦洋一、同じく早稲田大学政経学部。風間杜夫、早稲田大学第一文

学部。つかこうへい、慶応大学文学部！

岡本・横山

うおオオオオ！！ (と頭を抱えて) 勉強するべエ！！

と二人は走り去ってゆく。

張ケ谷残り、語る。

張ケ谷

最後まで青春をしていた二人が、とうとう勉強を始めて、三年はついに受験一色に染まりました。それから5カ月後、年が明けて1980年、来日したポールマッカートニーが大麻所持で捕まった1月の共通一次試験から、山口百恵が婚約を発表した3月の2次募集、そして各予備校の入試まで、それぞれの決戦が続ききました。

主な戦績をお伝えしておきましょう。

マフラー堀江さん、立教大学文学部。暗い日根さん、国際キリスト教  
大学教養学部。おぼさん、青山学院大学教育学部。ハツパさん、上智  
大学文学部。シュウケイ、中央大学商学部、関水、代々木ゼミナール。  
宮城と岡本がともに早稲田ゼミナール。

横山、駿台予備校。そして、私、張ヶ谷は日々是決戦、4当5落の甲  
斐あって、東京大学文科一類、無事合格致しました！

ファンファーレとともに戦績一覧表が出現する。

その中央を誇らしげに指差す張ヶ谷。

正面玄関。戦績表前。

張ケ谷が自分の名前を指差して立っていると、横山が来る。

横山 やったな。

張ケ谷 (Vサインなど出して) オウ、やったぜ。

横山 俺は浪人だ。

張ケ谷 当然だ。そんなもん、アレで受かるほど受験は甘かねえぜ。

横山 まあな。それで、いつ決行するんだ？

張ケ谷 なに？

横山 アレだよ。

張ケ谷 アレ？

横山 塗り潰すんだろ？

張ケ谷 何を？

横山 (指差す)

張ケ谷 誰が？ なんで？ なんで？

横山 何いってんだよ、お前がいったんだよ。黒く塗り潰すって。

張ケ谷 黒く？

横山 Paint It Black!

張ケ谷 冗談じゃねえよ。何でそんなことすんだよ。

横山 は？

張ケ谷 どんだけ苦労したと思ってんだよ。

横山 そら、わかるけどさ……

張ケ谷 わかってねえ。お前は絶対、わかってねえ。やってみろよ、お前、よ

くそんなこといえんなア。

横山 やんないの？

張ケ谷 やるかよ、そんなこと。もったいない。これは永遠に飾っててもいいぐらいだ。

横山 何だよ、オイ。ひでえな。権力に転ぶんだ？

張ケ谷 馬鹿、俺は東大だぞ。転ぶまでもねえだろ。俺が権力になるんだよ。

横山 オメーよオ！

張ケ谷 なに？

横山 何かすっげえヤな感じだぞ。

張ケ谷 オウ。何とでもいえ。ぜんぜん平気よ。今の俺は、クソ投げ付けられ  
ても笑っちゃうね。だって、東大に受かったんだもん。

ナハハハハ！(カメラを出して) よくやった！ 俺は偉い！ 東大ばんざい！  
(横山に渡して) オウ、浪人。撮れ。

とポーズをとる。

そこにお洒落なワンピースを来た可憐な少女が通る。

二人、思わず見とれるが、

少女 横山君、浪人だって？ 残念だったね。でも、去年は忙しかったからしょうがないよ。来年、ガンバって。

横山 あなた、日根さん！？

それは日根よし子だった。

日根 先生に挨拶しに来ただけど、私服で来ちゃった。いいよね、卒業式も済んでんだから。

横山 本当に日根さん？

日根 私、変わった？

横山 誰かと思った。

日根 変えたの、自分で。嫌いだったから、ここにいた時の自分。

横山 ……

日根 何かこの学校の雰囲気についてけなくて。3年間、牢屋にいたみたいだった。じゃ。

横山 おめでとう。

日根 うん。ありがとう。

日根は去る。

張ケ谷 さあ、俺も娑婆に出るか……釈放だ。釈放。

張ケ谷はじつと横山を見て、万感の思いで叫ぶ。

張ケ谷 ぐあああああ！

張ケ谷、去る。

横山だけを残して暗転。

気がつくのと、そこは元の2021年の劇場。

舞台にひとり佇む横山。学生服を脱ぐ。

舞台稽古終わり、片付けが始まっている。

お疲れさまでした、と行き交うスタッフと出演者たち。

リエ おつかれ。(と声をかけつつ、横山に) 明日の集合、午後一でいいですか？

二幕、頭から返します。

横山 うん、それで。

リエとともに現れた、アシスタント、横山から学生服を受け取る。

アシスタント あの……

横山 ん？

アシスタント その後、焚き火はどうなったんですか？ 卒業式の日、やったんですか、

河原で？

横山 いいや、やらなかった。

アシスタント 約束なの？

横山 卒業式がなかったんだよ。形だけはあったよ。でも、入試の真っ最

中だからね。試験がぶつかってる奴は休むし、落ちた奴はシヨック

で来ないし。とにかくそんな雰囲気じゃねえんだよ。俺も、予備校

の入試で行かなかった。結局、何だかわかんねえうちにバラバラに

なって、終わりだ……

アシスタント ……

リエ さあ、退館時間だよ。

アシスタント おつかれさまでした。明日もよろしくお願いします。

とリエとアシスタントは去る。

いつの間にか舞台の片隅に、白衣を着て、ギターケースを持った

シュウケイが立っている。

横山はそんなシュウケイの姿を見つつ、静かに語る。

横山 俺たちが二十歳になった時、シュウケイが死んだ。マンションの屋上

から飛び下りたんだ……

シュウケイ (静かに笑っている)

横山

俺は予備校での1年の懲役生活の後、大学に入っていた。でも、他にやることもなく、やっぱりまた岡本と芝居を始めていた。シュウケイが死んだ理由はよく知らない。卒業以来、ほとんど会ってもいなかった。ただ、彼の妹さんから、電話を貰って、その知らせを聞いた時、俺は咄嗟にバンジージャンプのことを思い出した。シュウケイは命綱も付けずにやっちまったんだ。

妹さんは、彼の手帳の中に書いてある電話番号を順に辿って、兄さんのことを知らせているのだといった。俺のナンバーもそこにあったそ  
うだ。でも、卒業以来、シュウケイが俺に電話をかけて来たことは一度もなかった。

シュウケイ

(静かに笑っている)

横山

シュウケイの通夜で、クラスの奴らと久し振りに会った。悲しいはずの夜が、妙にはしゃいだ同窓会のようになってしまった。みんなもう、懲役を終えている。話したいこともたくさんあって、そして、話す余裕も持っている。酒も覚えた。みんな、あの頃とは少し違ってた。俺たちは別れがたく、遅くまで時を過ごした。でも、それはきつとシュウケイが望んでいた風景だったと俺は思う。

舞台上に喪服を来たハツパが現れる。

横山、あの頃に戻る。

ハツパ

何か、楽しい夜になっちゃったね。

横山

いんじゃない。あいつもその方が嬉しいだろ。

ハツパ

呼んだのかもね、みんなを。でも、本人がいなきやダメじゃんね。

横山

要領が悪いんだよ、あいつは。

ハツパ

うん……

横山

楽しい、大学？

ハツパ

ボランテИАやってんの。忙しい、毎日。君の劇団は？

横山

またやる。今度は観に来てよ。

ハツパ

だって3日しかやらないんだもん。

横山

しょうがないよ。客がいねえもん。

ハツパ

今度に行くよ。

横山

彼氏を連れて。

ハツパ

そうしようか。

横山

いるんだ？

ハツパ

うん。健一さんは？

横山 まあね。  
ハツパ そろそろ帰る。早いんだ、明日。  
横山 うん。

間。

ハツパ 卒業式の日には。  
横山 俺、行かなかったんだ。  
ハツパ そうだよ。みんな、来ないんだもん。  
横山 何かあったの？  
ハツパ シュウケイ君が、ギター持って来てたのよ。それを今、思い出した。  
横山 俺のギターだよ、それ。返そうと思ったのかな？  
ハツパ 歌うつもりだったんだと思う。あの時みたいに。私、歌ってっていったのよ。  
でも結局、恥ずかしがって歌ってくれなかった。ドッチラけだったからね、卒業式。泣いてる子なんて誰もいないし。  
横山 ……約束、覚えてる？ 相模川の河原。  
ハツパ 出来なかったね。  
横山 やっぱ、その時にやんなきゃダメなんだよな、勢いで。  
ハツパ うん。  
横山 恋愛と一緒だぜ。  
ハツパ なによ、大人じゃん。  
横山 まあな。

二人、笑い合って、

ハツパ 頑張っつてね。  
横山 ハツパさんも。  
ハツパ じゃ。

とハツパは去る。

舞台では、静かに大道具の移動が行われる。

そのまま横山は立ち尽くして、シュウケイに語りかける。

横山 「なあ、シュウケイ、今でも時々、思うよ。あの時、お前の言う通り、行けばよかったって。帰るっていい張る奴がいても絶対に帰さないで、宮城も関水も女の子たちも、手を引っ張ってでも行けばよかったって。」

そして、朝日が昇ってくるまで、過ごせばよかったって。そんで叱られりゃよかったんだよ。親にも先生にも。殴られりゃよかったんだ、みんなで。なあ？

シュウケイ ……………

横山 歌ってくれよ。

だがシュウケイは静かに笑っているだけだ。

横山

相模川の西側の河原に立って、朝日を迎えるんだ。関東平野の向こうの端から、空が段々と白んでくる。やがて、鮮やかなオレンジ色が東の空に広がり始める。そして光が、俺たちを照らします。俺たちは徹夜明けの目を細め、声もなく、ただそれを眺めるだろう。

ヨレヨレの制服のまま一列に並んで。梅雨明けの川に、朝の光が細かく反射する。たくさんの宝石のように、輝きながら波に漂う。風が吹く。生まれたての星の上に初めて吹いた風のような優しい風が、俺たちの髪を吹き上げてゆく。振り返れば、俺たちが出会った街が目覚め始める。光はその街のアチコチにも反射して、街全体を輝かせている。その時、何の変哲もない雑然とした地方都市が、とても懐かしく思えてくる。いつかまたここに戻り、再会しようと、僕たちは誓い合う。故郷とは、風景のことではなく、絆のことだと俺たちは知る……

なあ、シュウケイ？

シュウケイ ……………

横山 歌ってくれよ……

だが、すでにそこにシュウケイの姿はなく……

何もない舞台に、ただ風が吹く。

幕

『セイリング』にてカーテンコール

※つかこうへい作『熱海殺人事件』を一部引用しています。